

4-3 心理学

研究・教育活動の概要と特色

心理学専攻分野の教員は、現在、教授3名、准教授2名、助教1名の6名構成である。それぞれの専門は社会・犯罪心理学、知覚・認知心理学、社会・生理心理学、応用・健康心理学、文化心理学と、多領域にわたっている。基礎研究から社会の多様な方面と連携した応用的な研究まで、研究の幅が広いことは、本専攻分野の大きな特色である。他の学問領域・機関と連携した共同研究、海外の研究者との共同研究も多い。学部、大学院とも、卒業生は、学・官・民の多様な社会的分野で、バランスのよい活躍をしている。教員の研究は国際的水準の成果をあげている。また教育の結果である大学院生の研究発表の生産性は高く、とくに国際的学会や国際的ジャーナルでの発表を行う院生が多いことは、文学研究科内でも突出している。大会優秀発表賞などの受賞も数多い。その結果、日本学術振興会特別研究員としての採用も着実である。東北大学災害科学国際研究所や電気通信研究所との共同研究も活発に展開している。研究成果を、公開講座や公開シンポジウム、各種メディア等で社会的に還元する努力も十二分になされている。

I 組織

1 教員数（2013年9月末現在）

教授：3

准教授：2

講師：0

助教：1

研究助手：0

教授：大淵憲一、行場次朗、阿部恒之

准教授：坂井信之、辻本昌弘

助教：上原俊介

2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
48	1	23	13	0

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	15	3	6
10	15	3	4
11	16	6	2
12	17	5	3
13	0	0	0
計	63	17	15

* 2013 年度は、9 月末までの数字

II 過去 5 年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013 年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	7	1	8
10	4	0	4
11	2	0	2
12	3	0	3
13	0	0	0
計	16	1	17

* 2013 年度は、9 月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

佐藤拓、2009 年度、『虚偽検出に関する認知心理学的研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・吉原直樹、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

池田和浩、2009 年度、『転換的語り直しによる自伝的記憶の変容に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・木村邦博、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

菊地史倫、2009 年度、『嘘の目的達成に関する感情心理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、教授・戸島貴代志、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

田村達、2009 年度、『非人間的ラベリングが対象に対する認知判断と攻撃行動に

及ぼす効果』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、教授・佐藤嘉倫、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

鶴巻（秦）正子、2009年度、『注意欠陥／多動性障害の子どもにおける漢字の書字学習に関する研究—構成見本合わせ課題による指導の効果—』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・木村邦博、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

日高聡太、2009年度、『運動物体の脳内表現とその機能的意義に関する心理物理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

山本佳子、2009年度、『広汎性発達障害学生の大学適応に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・吉原直樹、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

佐々木隆之、2009年度、『聴覚的リズムのカテゴリ知覚と演奏』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・行場次朗、教授・木村邦博

中川知宏、2010年度、『青年期の集団と非行：非行の集団過程モデルの検証』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・正村俊之、准教授・辻本昌弘

渥美恵美、2010年度、『リハビリテーションと対人関係 - 作業療法学生の社会的交流技能に関する研究 - 』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・下夷美幸

柴田理瑛、2010年度、『視覚的アウェアネスの生起と消失からの回復に関する実験心理学的検討』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

鈴木結花、2010年度、『粗さの触知覚におよぼす聴覚情報の影響に関する心理物理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

引地博之、2011年度、『地域内協力の促進 —地域コミットメントの効果とその形成機構—』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・木村邦博、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

川嶋伸佳、2011 年度、『社会的不平等と公正感－ミクロ公正感因果モデルの検討－』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・佐藤嘉倫、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

上原俊介、2012 年度、『怒りの社会心理学的研究：規範違反の知覚と怒り感情に対する人間関係タイプの影響』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・木村邦博、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

高橋純一、2012 年度、『パターンの情報特性と感性特性に依存して変容する視覚的短期記憶』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

遠藤光男、2012 年度、『顔認識過程の特性に関する心理学的研究：熟達性の視点から捉えた顔検出過程』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	22	6	3	0	31
10	3	3	1	0	7
11	16	6	7	0	29
12	13	4	2	0	19
13	10	3	1	1	15
計	64	22	14	1	101

* 2013 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
----	------	------	-----	-----	---

09	14	43	14	2	73
10	15	39	14	3	71
11	18	28	0	0	46
12	3	44	4	0	51
13	7	39	1	0	47
計	57	193	33	5	288

*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

渥美恵美・大淵憲一. 「作業療法学生の社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」 『応用心理学研究』, 36, 114-123, 2011.

渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣. 「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証—臨床実習指導者評価を用いて—」 『感性福祉研究所年報』, 12, 163-174, 2011.

原野明子・朴香花・佐藤拓・鶴巻正子. 「福島県内の幼稚園における個別の指導計画作成の現状」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, 93-101, 2009.

日高聡太・行場次朗. 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10/11, 49-55, 2009.

Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 71, 1294-1304, 2009.

Hidaka, S., Manaka, Y., Teramoto, W., Sugita, Y., Miyauchi, R., Gyoba, J., Suzuki, Y., & Iwaya, Y. 「Alternation of sound location induces visual motion perception of a static object」 『PLoS ONE』, 4, e8188. 2009.

Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Spatiotemporally coherent motion direction perception occurs even for spatiotemporal reversal of motion sequence」 『Journal of Vision』, 9(13):6, 1-12, 2009.

Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」 『Neuroscience Research』, 73, 73-79, 2012.

引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社

- 会的環境の影響— 『土木学会論文集』, 65, 2, 101-110, 2009.
- Hikichi, H. 「Local cooperation and social inequalities」 In K. Ohbuchi & N.Asai (Eds.), 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation (chap. 9)』 Melbourne: Trans Pacific Press, 2011.
- 菅藤健一・森丈弓・上埜高志. 「非行臨床における処遇課程の分析について」 『東北大学大学院教育学研究科研究年報』, 57(2),255-268, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会階層と公正感：多元的公正判断と社会的属性の関係」 『文化』, 73, 83-99, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一. 「日本における社会的な不平等の正当化：体制正当化理論の検証」, 大淵憲一（編）『日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討（平成19年度～21年度科学研究費補助金研究成果報告書）』, 113-125, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会的な不平等とマイクロ公正感：不公正感受性の効果」 『法と心理』, 11(1), 47-57, 2011-10, 2011.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 『社会心理学研究』, 27(2), 63-74, 2012.
- Kawashima, N. 「Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms」 K.Ohbuchi and N. Asai (Eds.) 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation』 Melbourne: Transpacific Press, 22-40, 2011.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及ぼす影響」 『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., Kawashima, M., & Abe, T. 「Is a humorous excuse better than lying?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 34-39, 2010.
- 小嶋かおり. 「絵本に見られる対人葛藤と心の理論による物語理解」 『新潟青陵大学短期大学部研究報告』, 41, 163-173, 2010.
- 小嶋かおり. 「日本の昔話と対人葛藤」 『文化』, 74, 2010.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫. 「学生のQOLに影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に—」 『早稲田大学臨床心理学研究』, 8, 53-65, 2009.
- 熊谷智博・大淵憲一. 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不正さの効果」 『社会心理学研究』, 24(3), 200-207, 2009.
- 森丈弓. 「犯罪・非行のリスクアセスメント」 『青少年問題 財団法人青少年問題

- 研究会』640, pp.8-13, 2010.
- 森丈弓. 「こんなときの叱り方のコツ 万引きをした」 『児童心理』 金子書房
9, pp.91-95, 2010.
- 森丈弓. 「Mathematica による構造方程式モデリング」 『いわき明星大学人文学
部紀要』, 24, 84-96, 2011.
- 森丈弓. 「犯罪と非行」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星大
学出版部 pp.235-256, 2011.
- 森丈弓. 「サイコパス」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星大
学出版部 pp.150-152, 2011.
- 森丈弓. 「再犯のリスクアセスメント」 『カウンセリング実践ハンドブック』
丸善. pp.490-491, 2011.
- Nakamata, T. 「The tendency to approach positive stimuli and avoid negative stimuli」
『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 21-25, 2011.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「人格を代表するのは顔・身体のどの部位か
—最期の別れで触れる場所—」 『日本顔学会誌』, 印刷中.
- 夏堀百合奈・大橋智樹・高田利武 「社会的比較と課題習熟度が社会的促進に与え
る影響について」 『心理行動科学科研究報告』, 2, 128-150, 2012.
- 岡本吉生 「救済しあう夫婦の子育て期」 日本加除出版 『住民行政の窓』第
359号 pp.128-131, 2011.
- 岡本吉生 「青少年問題この10年」 財団法人青少年問題研究会 『青少年問題』
第643号 第58巻夏季号 pp.8-13, 2011.
- 岡本吉生 「非行リスクとしての障害と関連問題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮
一(編) 『非行臨床の新潮流』, 金剛出版, pp.69-81, 2011.
- 岡本吉生 「置手紙: 配偶者の突然の家出」 『戸籍時報』, 677, 74-76, 2011.
- 岡本吉生 「情状鑑定の方法と課題」 『青少年問題』, 59, 18-23, 2012.
- 岡本吉生 「夫婦の黙示録」 『住民行政の窓』, 376, 84-87, 2012.
- 岡本吉生 「お父さんとうまくいかない」 『人権のひろば』, 83, 32-33, 2012.
- 岡本吉生 (Sexton, T. L. 著) 「機能的家族療法 (FFT) の臨床実践」 『家族療
法研究』, 29, 2, 91-93, 2012.
- 岡本吉生 「子どもの問題に悩む母親と姑の葛藤」 『人権のひろば』, 92, 34-35,
2013.
- 岡本吉生 「家庭裁判所の家事事件」 (日本家族研究・家族療法学会編「家族療
法テキストブック」金剛出版, 2013)

- 岡本吉生 「離婚の後始末」 『戸籍時報』, 691, 97-99, 2012.
- 岡本英生・生島浩 「大震災が犯罪者の立ち直りに与えた影響に関する研究ーリスクマネジメントとしての社会支援の観点からー」 『明治安田こころの健康財団研究助成論文集』, 47, 155-161, 2012.
- 岡本吉生 「利発な子どもが背負うもの」 『住民行政の窓』, 25, 6, 81-85, 2013.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An interpretation from closeness」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 1-7, 2011.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony」 『International Journal of Conflict Management』, 24, 112-125, 2013.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception」 『Psychological Reports』, 104, 759-769, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Contrast tactics in deceptive impression management」 『Social Behavior and Personality: An International Journal』, 37, 267-272, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Gender differences in confidence about lying and lie detection」 『Tohoku Psychologica Folia』, 67, 71-73, 2009.
- 佐藤拓・仁平義明. 「青年期のキャリア・レジリエンスー進路決定のリスク要因・促進要因ー」 『東北大学学生相談所年報』, 3, 23-27, 2009.
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of the appropriateness of cooperative actions」 『Neuroscience Letters』, 452, 189-193, 2009.
- Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded with a weigh」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 74, 225-238, 2012.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 72, 387-397, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010.
- 生島 浩 『学校臨床の現場から』 SEEDS 出版 2009.
- 生島 浩 「保護観察官に期待されるもの」 『更生保護と犯罪予防』, 151, 6-15, 2009.
- 生島 浩・岩崎陽子 「少年鑑別所における収容鑑別」 吉川悟編『システム論

- からみた援助組織の協働』 金剛出版 167-174 2009.
- 生島 浩 「非行臨床からのアプローチ」 『生徒指導学研究』, 8, 27-34, 2009.
- 生島 浩 「立ち直りの手立てとしての家族」 『家族療法研究』, 26(3), 70-74, 2009.
- 生島 浩・森丈弓 「少年司法の対応」 齋藤万比古（編）『子どもの攻撃性と破壊的行動障害』 中山書店, 242-257, 2009.
- 生島 浩 「犯罪・非行と家族ーリスク・ファミリーの臨床」 『犯罪と非行』, 163, 5-21, 2010.
- 生島 浩 「少年非行と家族」 井上眞理子（編）『家族社会学を学ぶ人のために』, 世界思想社, 202-219, 2010.
- 生島 浩 「非行臨床モデルの意義と課題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮一（編）『非行臨床の新潮流』, 金剛出版, 135-147, 2011.
- 生島浩・岡本吉生・廣井亮一 「非行臨床の新潮流」 金剛出版, 2011.
- 生島浩・芳賀まゆき・北部大輔 「高齢犯罪者に対する更生援助プログラムに関する研究」 『明治安田こころの健康財団研究助成論文集』, 46, 187-195, 2011.
- 生島浩 「リスク・マネジメントは立ち直り支援となり得るのか」 『青少年問題』, 645, 14-19, 2012.
- 生島浩・石川祐介 「更生保護」 日本司法福祉学会編『司法福祉』, 60-71, 生活書院, 2012.
- 生島浩・三浦恵子 「医療観察制度」 日本司法福祉学会編『司法福祉』, 72-81, 生活書院, 2012.
- 生島浩 「更生保護におけるシステムズ・アプローチの展開」 『更生保護学研究』, 創刊号, 96-104, 2012.
- 庄司有里・生島浩 「スクールカウンセラーによる非行問題への支援に関する一考察」 『福島大学心理臨床研究』, 7, 51-58, 2012.
- 杉原沙千子・生島浩・久保貴 「更生保護における犯罪心理臨床の歴史と展望」 『犯罪心理学研究 50 周年記念特集号』, 73-87, 2011.
- Suzuki, Y. & Gyoba, J. 「Correspondence of tactile and auditory information modifies the effects of sound on the tactile perception of roughness」 『The Journal of Psychonomic Science』, 28, 181-182, 2009.
- 高田奈緒美・大淵憲一. 「対人葛藤における寛容性の研究：寛容動機と人間関係」 『社会心理学研究』, 24, 208-218, 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Location memory of visual patterns modulated by preference」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 28, 163-164, 2009.

- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』 , 69, 246-251, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 69, 8-22, 2011.
- Takahashi, J. & Hatakeyama, T. 「Spatial and nonspatial working memory and visual search」 『Psychological Reports』 , 108, 893-907, 2011.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』 , 30, 139-140, 2011.
- 高橋純一・畠山孝男 「視覚探索の低次・高次処理段階と心像能力の個人差の次元」 『イメージ心理学研究』 , 9, 25-38, 2011.
- Takahashi, J. & Gyoba, J. 「Self-rated autistic-like traits and capacity of visual working memory」 『Psychological Reports』 , 110, 879-890, 2012.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Internal criteria underlying affective responses to visual patterns」 『Gestalt Theory』 , 34, 67-80, 2012.
- Takahashi, J. & Hatakeyama, T. 「Reported vividness in visual imagery and apparent motion」 『Journal of Mental Imagery』 , 36, 51-60, 2012.
- Takahashi, J. & Yasunaga, D. 「Reported Visual Imagery and Apparent Motion: An ERP Study」 『NeuroReport』 , 23, 904-910, 2012.
- Takahashi, J. 「Multiple intelligence theory can help promote inclusive education for children with intellectual disability and developmental disorders: Historical reviews of intelligence theory, measurement methods, and suggestions for inclusive education.」 『Creative Education』 , in press.
- Takahashi, J. 「Suggestions for a teacher training program for inclusive education in a Japanese university.」 『Creative Education』 , in press.
- Takahashi, J., Tamaki, K., & Yamawaki, N. 「Autism spectrum, attachment styles, and social skills in university students.」 『Creative Education』 , in press.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Temporal characteristics of the effects of visual pattern redundancy on encoding and storage processes: Evidence from rapid serial visual presentation.」 『Psychological Research』 , in press.

- Takahashi, J., Gyoba, J., & Yamawaki, N. 「Effect of spatial complexity on visual short-term memory and self-reported autistic-like traits in typically developed individuals.」 『Journal of Autism and Developmental Disorders』, 43, 1725-1731, 2013.
- Takahashi, J. & Yasunaga, D. 「Reported visual imagery and apparent motion: an event-related potential study.」 『NeuroReport』, 23, 904-910, 2012.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 53-60, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 30, 19-24, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「High-intensity sound increases the size of visually perceived objects」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 75, 501-507, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Changing Pitch of Sounds Alters Perceived Visual Motion Trajectory」 『Multisensory Research』, 26, 317-332, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Complexity of visual stimuli affects visual illusion induced by sound」 『Vision Research』, accepted.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：指導者への葛藤解決方略」 『リハビリテーション教育研究』, 14, 126-128, 2009.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 『リハビリテーション教育研究』, 15, 2011.
- 外川江美 「「暴れる子ども」の理解と対応」 『神奈川県警少年育成課機関誌「学警連だより」』, 印刷中.
- 外川江美・大淵憲一 「T A Tを用いた性加害少年の心理理解について」 『犯罪心理学研究』, 49, 特別号, 2-3, 2011.
- 鶴巻正子 「注意欠陥多動性障害者の心理」, 田中農夫男・木村進（編著）『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』, 2009.
- 鶴巻正子・朴香花・原野明子・佐藤拓. 「福島県内の幼稚園における保育者が考える特別支援教育の課題」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, 103-108, 2009.
- 鶴巻正子・岩谷美奈・佐藤拓・原野明子. 「小学校入学前の発達障害幼児に指導が必要なソーシャルスキルー小学校・中学校・特別支援学校の教員を対象としたアンケート調査からー」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, 109-116, 2009.

- Tsurumaki, M., Sato, T., & Nihei, Y. 「The effect of negatively worded measures of self-esteem on children」 『Social Behavior and Personality: An International Journal』, 37, 1383-1384, 2009.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Kunisa, Y., & Ohbuchi, K. 「Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives」 『Tohoku Psychologica Folia』, 68, 38-48, 2009.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 40-52, 2010.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」 『実験社会心理学研究』, 51, 32-42, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一 「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」 『文化』, 75, 40-55, 2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 10-20, 2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」 『Japanese Psychological Research』, 54, 137-149, 2012.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・清水かなこ・大淵憲一 「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情: 知覚された欲求責任違反の媒介的役割」 『社会心理学研究』, 27, 161-173, 2012.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Tamura, T., & Mori, T. 「Anger in close relationships: Relationships, perceived violation of responsibility for needs, and feelings of anger」 『Tohoku Psychologica Folia』, 71, 33-41, 2012.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里・田村 達・森 丈弓 「道徳的違反に対する怒り感情: 義憤を規定する状況要因の検討」 『社会心理学研究』, 28, 158-168, 2013.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齊藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 『文化』, 印刷中.
- Wiwattanapantuwong, J., Lee, C., Honda, A., & Abe, T. 「Taiwanese perceptions of Japan and the use of nuclear power after the 2011 East Japan earthquake and tsunami disaster: An examination of the role of media and heuristic cues」 『Tohoku

- Psychologica Folia』, 70, 44-55, 2011.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's Task Performance」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 36-43, 2011.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Maintaining the gender gap and benevolent sexism」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 115-130). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011.
- 山本佳子・仁平義明. 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援」 『学生相談研究』, 30(1), 12-22, 2009.
- Yamamoto, Y. & Nihei, Y. 「Difficulties in adjusting to college life experienced by students with pervasive developmental disorders: comparison with schizophrenic students」 『Tohoku Psychological Folia』, 67, 1-5, 2009.
- 山脇望美・山本雄大・熊谷智博・大淵憲一 「攻撃性の顕在的・潜在的測定による攻撃行動の予測」 『社会心理学研究』, 印刷中.

(2) 口頭発表 (ポスター発表を含む)

(国際学会)

- Fuchimoto, J., Onuma, T., & Sakai, N. 「The Effect of Ester Flavor on the Perception of Beer」 The 10th Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, 2009.
- Hikichi, H. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 東北大学文学研究科グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」国際シンポジウム “How do people react when they face social justice/injustice?: Determinants of cooperation and integration.” 2009.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.

- Hikichi, H. 「How do community residents determine cooperation to community activity?: Influence of social unfairness and commitment to the community」 東北大学文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」第4回東アジア若手研究者国際シンポジウム, 2010.
- Hikichi, H. 「Social disparity and cooperation among community residents: Effect of sense of relative poverty and community commitment」 東北大学文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」ワークショップ, 2010.
- Hikichi, H. 「Effect of local historical heritages on community commitment: history of glory and history of tragedy」 東北大学文学部 GCOE プログラム国際シンポジウム “Intergroup Conflict and Social Identity: Impact of History, Continuity and Stability of Group.”, 2010.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of the perceived relative deprivation on community commitment and willingness to participate in community activities」 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of local historical heritages of glorious or tragic past events on residents' community commitment」 Pre-Conference of 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Group Processes & Intergroup Relationships), 2011.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kawabata, T., Muroki, T., Uchiyama, Y., Taya, K., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Perspective Taking on Violent Crime」 第49回日本犯罪心理学会（於神戸国際会議場）, 2011.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K., & Tajima, H. 「Effects of empathy and cognitive biases in three types of affression in Japanese students.」 International Congress of Psychology, 2012.

- Kawabata, T. & Sugawara, M. 「Neuropsychology of Cooperativeness」 第12回ヨーロッパ心理学会（於イスタンブール）, 2011.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M, Imaizumi., O, & Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 29th International Congress of Clinical Neurophysiology, 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Kawashima, M., Nomura, M., Hikima, R., Nagasaki, F. & Abe, T. 「The modern meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Kawashima, N. 「How do People Justify Social Inequalities? : An Examination of System Justification Theory with Japanese People」 The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Kawashima, N. 「Multidimensionality of social unfairness and social protests among Japanese」 Verbal presentation at the Lind Seminar for Young Social Scientists. 2009.
- Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., Asai, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」 Poster presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Kawashima, N. 「Who feel a sense of unfairness? : The Relationship between Socioeconomic Status and Micro Unfairness in Japan」 Verbal presentation at the Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2010.
- Kawashima, N. 「Effects of the perceptions of Japanese society on macro fairness」 The 9th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2010.
- Kawashima, N. 「Social Inequalities and Psychological Well-being in Japan: The Effects of Micro and Macro Fairness」 Verbal presentation at the International Symposium “Social Inequality and Justification of It,” Tokyo, December 18th, 2010.
- Kawashima, N. & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being.」 Poster presentation at The 12th Annual

- Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, January 28th, 2011.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Is humor a better excuse than lies?」 Society for Applied Research on Memory and Cognition, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor perception as a key of tolerance for mistakes」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Kikuchi, F., Akita, Y., & Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」 The 9th Meeting of the Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Predictive validity of Youth Level of Service/Case Management Inventory among Japanese juvenile population」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.
- Nakamata, T. 「The Tendency to approach and avoid the pleasant and unpleasant stimuli」 Tohoku University Global COE “International workshop for young researchers”, 2010.
- Nakamata, T. & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and negative stimuli.」 The 16th General Meeting of the European Association for Social Psychology, 2011.
- Nakamata, T., & Abe, T. 「Eye Movement Response to Pleasant/Unpleasant Facial Expression」 The 14th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2013.
- Nakamata, T., Hirano, D., & Abe, T. 「The Factors Affecting Littering –Signboards, Prior Litters, Environment, and Monitoring Camera-」 The 13th European Congress of Psychology, 2013.
- Okamoto, Y. 「Ways and Issues of Risk Assessment for Offenders with Intellectual Disability in Expert Examination」 16th World Congress International Society for Criminology, 2011.
- Okamoto, Y. 「Support toward offenders with intellectual disability: Collaboration with family, community, and society」 16th World Congress International Society for Criminology, 2011.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Is It True that Unfamiliar Brands Are the Meaningless Symbols?」 The 10th Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.

- Sakurai, K., Shibata, M., Kubodera, T., & Ono, H. 「Enhanced predominance of motion-parallax stimuli under binocular rivalry.」 32th European Conference on Visual Perception, 2009.
- Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. 「Linguistic cues for detecting deception: Morphological and content-based analysis」 The 8th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition, 2009.
- Shibata, M., Kubodera, T., & Sakurai, K. 「Binocular rivalry between motion parallax stimuli in depth and motion stimuli yoked to lateral head movements」 Mini RIEC workshop on multimodal perception, 2009.
- Shibata, M., Yousuke., K., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Shojima, H. 「Community-Based Treatment of Juvenile Delinquents with Pervasive Developmental Disorders in Japan」 国際犯罪学会第 16 回世界大会, 神戸, 2011.
- Shojima, H. 「Psycho-therapeutic Rehabilitation Program for Juvenile delinquent in Japan」 第 8 回国際思春期青年期精神医学会議, Berlin, 2011.
- Shojima, H. 「Risk Management in the case of Fukushima Nuclear Crisis from The Great East Japan Earthquake: A report from the perspectives of adolescent delinquency and criminal psychology 」 The 30th National Organization of Forensic Social Work Annual Conference, 2013.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009) , 2009.
- Suzuki, Y., Takahashi, J., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「An ERP Study on the Semantic Processing of Native Language in Children Enrolled in a Foreign Language Immersion Program」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, Liverpool, 2010.
- Takada, N. and Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The Effect of Categorical Level on Chinese Forgiveness toward Japanese」 The Third International

- Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on Memory, 2010.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Takahashi, M. & Mori, M. 「The actuarial and clinical predictors of recidivism using YLS/CMI in a sample of Japanese juvenile offenders」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, 2011.
- Takahashi, J. & Gyoba, J. 「Relationships between self-reported autistic-like traits and visual short-term memory in typically developed individuals.」 International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (IASSID) 3rd Asia-Pacific Regional Congress, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」 The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of Consciousness, 2011.

- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research Forum, 2011.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion representation by auditory information」 International Multisensory Forum, 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual Perception, 2009.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. 「Psychological Impact on Natural Disaster Preparation: A Cross-Country Comparison between Thai and Japanese Citizen (The Preliminary Study)」 The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference, 2010.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. 「The Role of Emotions in Disaster Preparation: A Cross-Country Comparison between Japan and Thailand」 International Society for Research on Emotion, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. 「Difference in Disaster Preparation Styles between Citizens of Central and Southern Thailand」 The 4th Thailand-Japan International Academic Conference, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., Honda, A. & Abe, T. 「Moral dilemmas in Japan after the Fukushima nuclear disaster: Effects of residential area and disaster experience」 International Society for Research on Emotion, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. Citizen's viewpoints toward natural disaster's threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand. The 9th International Conference on Environmental, Cultural, Economics & Social Sustainability, 2013.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's task Performance.」 The 11th Annual Conference of Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」 GCOE International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude toward Benevolent Sexism」 The Thirteenth Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Why do women accept benevolent sexism?」 The 13th Annual Meeting of Society for Personality and social Psychology, 2012.

(国内学会)

荒木剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係」 日本認知療法学会第9回大会・日本行動療法学会第35回大会, 2009.

荒木剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係(2)」 日本心理学会第74回大会, 2010.

朝岡陸・渡邊洋一 「聴覚刺激と視覚刺激が時間評価に及ぼす影響」 東北心理学会第67回大会, 2013.

朝岡陸・渡邊洋一 「聴覚的時間と視覚的時間の差異についての検討」 認知心理学会第11回大会, 2013.

朝岡陸・渡邊洋一 「感覚刺激と刺激間隔が時間再生に及ぼす影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.

渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣・稲垣成昭. 「作業療法学生の社会的交流技能に対する臨床実習効果に関する研究—評価技術実習と総合実習での比較—」 第43回日本作業療法学会, 2009.

渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣 「臨床実習Iの指導者評価に対する社会的交流技能の効果の検討」 第45回日本作業療法学会, 2011.

遠藤光男 「検出と基礎レベルの分類における顔認識過程の特性」 日本心理学会第75回大会, 2011.

瀧上康幸・外川江美・坂野剛崇・浦田洋 シンポジウム「未来は開かれている～若手心理専門職等の育成」 日本犯罪心理学会第51回大会, 2013.

瀧本潤・大沼卓也・坂井信之 「エステル香の添加が飲料の評価に及ぼす影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.

権蛇明・近藤日出夫・浦尾洋旭 「非行少年のレジリエンスとリスクに関する研究(5)」 日本犯罪心理学会第50回大会, 2012.

日高聡太・永井聖剛・行場次朗. 「仮現運動刺激が一時的に消失する静止刺激に駆動する運動知覚」 日本視覚学会2009年冬季大会, 2009.

日高聡太・宮内良太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一・岩谷幸雄. 「聴覚運動手がかかりによって駆動される静止視覚刺激の運動」 日本バーチャルリアリティ学会VR心理学研究委員会第13回研究会, 2009.

- 日高聡太. 「仮現運動軌道上での運動物体表象の時空間補完」 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル(P&P)」研究分科会第1回研究会, 2009.
- 日高聡太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一. 「聴覚情報変化によって生じる視覚運動刺激の視覚的持続 (Visible persistence) の変容」 多感覚研究会, 2009.
- 日高聡太・永井聖剛・Allison B. Sekuler・Patrick J. Bennett・行場次朗. 「仮現運動軌道上で生じる輝度検出の抑制」 日本基礎心理学会第28回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一. 「歴史資産の熟知度が地域コミットメント形成に与える効果」 東北心理学会第63回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力行動の促進要因: 歴史資産と愛着の効果」 日本心理学会第73回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力行動の促進—歴史資産と地域コミットメントの効果—」 日本社会心理学会第50回大会, 2009.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「居住地における協力行動の促進—歴史資産の熟知度と地域コミットメントの効果—」 第40回土木計画学研究発表会, 2009.
- 引地博之. 「地域活動に対する協力の促進—地域コミットメントの効果とその形成機構—」 環境心理学研究会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「格差社会における地域内協力の形成機構—地域コミットメントと相対的貧困感の効果—」 日本応用心理学会第77回大会, 2010.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「歴史資産による地域コミットメントの形成—栄誉の歴史と悲劇の歴史—」 日本社会心理学会第51回大会, 2010.
- 引地博之・大淵憲一. 「物質主義傾向の要因とそれが相対的剥奪感に与える効果」 日本社会心理学会第52回大会, 2011.
- 平川奈々・大淵憲一. 「従業員の職業価値観とリーダー・タイプの選好に関する研究」 日本社会心理学会第53回大会, 2012.
- 平松千枝子・吉川好昭・岡本吉生・須藤明・市村彰英・亀井洋子・白倉憲二. 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究—家族として再編するために—」 財団法人こども未来財団, 2013.
- 平野智久・高橋純一・行場次朗. 「アレキシサイミア傾向者における顔表情認知特性」 東北心理学会第66回大会, 2013.
- 市村彰英・吉川好昭・岡本吉生・須藤明. 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究 (その2) —質的な観点から—」 日本家族研究・家族療学会, 2013.

- 本多明生・Wiwattanapantuwong Juthatip・阿部恒之 「原子力発電所事故に対する大学生の態度：震災復興活動への賛否ならびに事故収束の予測年数との関連性」日本感情心理学会第20回大会，神戸大学，2012.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害児に対する「相手から情報を得る」スキルの指導」日本行動分析学会第27回年次大会，2009.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害のある幼児に対するソーシャルスキル・トレーニング「順番を守る」スキルの獲得を目指して」日本自閉症スペクトラム学会第8回大会，2009.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害のある就学前幼児に指導が必要なソーシャルスキル—教員を対象としたアンケート調査から—」日本行動分析学会第27回年次大会，2009.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「触る位置で面の粗さ知覚が変わる？」第2回多感覚研究会，2010.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚における頭部近傍面の優位性」北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会，2011.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「触覚による粗さ知覚の頭部近傍面優位性—頭部からの距離依存性の検討—」日本基礎心理学会第30回大会，2011.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さ知覚の頭部近傍面優位性は頭部からの距離に依存して変化する」第3回多感覚研究会，2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚に及ぼす空間的要因と視覚的身体情報の影響」日本イメージ心理学会第13回大会，2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚に空間的要因が及ぼす影響—信号検出理論による検討—」日本基礎心理学会第31回大会，2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「頭部と刺激の位置関係による触知覚の変容」第67回東北心理学会，2013.
- 角田 亮・森丈弓・高橋 哲・岡部梨奈子 「矯正施設における処遇プログラムの効果検証を巡る諸問題(2)」，日本犯罪心理学会第50回大会，2012.
- 神田光荣・坂井信之 「香水が人物の印象形成に及ぼす影響」日本味と匂学会第45回大会，2011.
- 神田光荣・坂井信之 「人物の印象形成における香水の効果」東北心理学会第66回大会，2012.
- 神田光荣・大和久美紀・坂井信之 「柔軟剤の香りが人物の印象形成に及ぼす影響」日本心理学会第76回大会，2012.

- 神田光荣・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評価における共食の影響」 日本味と匂学会第 46 回大会, 2012.
- 神田光荣・坂井信之 「香りによる人物の印象が瞳孔径の変化に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 神田光荣・坂井信之 「香りが人物の印象に与える影響—NIRS による検討—」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 神田光荣・坂井信之 「香りが顔の選好に及ぼす影響」 日本顔学会第 18 回大会, 2013.
- 神田敬幸・本多明生・柴田寛・浅井暢子・寺本渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツにおける臨場感・迫真性の規定因」 第 16 回日本バーチャルリアリティ学会大会, 2011.
- 神田敬幸・本多明生・柴田寛・浅井暢子・寺本渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツの臨場感と迫真性に関する実験的研究—シンバル演奏場面における視野制限と音圧レベルの効果—」 電子情報通信学会(ヒューマン情報処理研究会), 2011.
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 河地庸介・柴田理瑛・今泉 修・行場次朗・松江克彦 「知覚的消失現象におけるセルフアウェアネス」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 河地庸介・柴田理瑛・今泉 修・行場次朗・松江克彦. 「消失事象を主観的なものであると混同させる刺激要因の検討」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・佐藤嘉倫. 「日本における社会的不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 日本心理学会 73 回大会, 2009.
- Kawashima, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of social-economic and social psychological variables」 Tohoku-Stanford Summer School, 2009.
- Kawashima, N. 「Determinants of social protests: Perceptions of social and personal fairness, the immutability belief of and self efficacy for the society, and costs of protest」 The 8th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2009.

- 川嶋伸佳. 「日本における不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 「科学技術と日本人の価値意識」研究ワークショップ, 2009.
- Kawashima, N. 「Justification of social inequalities in Japan: An examination of system justification theory」 The Hewstone Seminar for Young Social Scientists, 2009.
- 川嶋伸佳・熊谷智博・浅井暢子・大淵憲一. 「抗議行動の規定因：不公正感、社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 日本社会心理学会第 50 回大会 日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 川嶋伸佳. 「低階層者における社会的な不平等の合理化機構：不平等への敏感さの効果」 科学技術と日本人の価値意識第 2 回研究ワークショップ, 2010.
- 川嶋伸佳. 「格差と公正感：社会的な不平等維持メカニズムの検討」 第 2 回公正研究会, 2010.
- 川嶋伸佳. 「多元的公正感の要因：階層モデルと集団価値モデルの複合的效果」 社会的葛藤研究会第 1 回ワークショップ, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一. 「社会的な不平等と社会に対する知覚の関係」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一. 「日本における不平等の合理化機構：社会に対する信念がマクロ公正感に及ぼす効果」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 川嶋伸佳 「ミクロ公正感の要因：社会的な経済的地位と不公正への敏感さの効果」 法と心理学会第 11 回大会, 2010.
- 川嶋伸佳 「社会経済的地位に対する認知とミクロ公正感」 若手研究者のための公正研究ワークショップ, 2011.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「階層帰属意識とミクロ公正感」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 川嶋伸佳 「社会的な不平等とミクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」 日本社会心理学会第 52 回大会ワークショップ「『関係性』に注目した公正概念の検討—手続きなのか人間関係なのか—」, 2011.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第 17 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「他者との関係維持方略としてのウソ」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果- 睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 7 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効

- 果」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示が嗜好に及ぼす影響—」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓. 「嘘つきの代償—嘘の露見が弁解の効能に与える影響—」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「ユーモア受入の余地—他者との関係性・状況の影響—」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響—」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 小嶋かおり・大淵憲一. 「葛藤時の子どもの行動に対する親の原因帰属」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 小嶋かおり・大淵憲一. 「対立者の動機推測と対人葛藤方略」 社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 小嶋かおり 「親への期待と葛藤時の原因帰属、関係満足度との関連性の検討」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 小嶋かおり・大淵憲一 「対人葛藤における動機推測が問題解決志向型方略を促す効果」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 権蛇明・近藤日出夫・浦尾洋旭 「非行少年のリスクとレジリエンスに関する研究(5)」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 李佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 李佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較—半構造化面接を中心に—」 日本感情心理学会第 19 回大会・日本パーソナリティ心理学会第 20 回大会合同大会, 2011.
- 中俣友子・大淵憲一 「快・不快表情に対する接近回避反応」 北海道心理学会・東北心理学会合同第 11 回大会（兼 北海道心理学会第 58 回大会、東北心理学会第 65 回大会）2011.
- 中俣友子 「中学生の友人関係における怒り表出に関する研究—日本とオーストラリアの比較—」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 中俣友子・阿部恒之 「快・不快表情に対する反応 - 視線の動きに注目して-」 日本感情心理学会第 20 回大会, 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「単純作業における反応合理性」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会, 2012.

- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制と嫌悪感情」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 磯部志保里・行場次朗. 「静止した誘導刺激による視覚的消失現象の分析」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 岩淵絵里・上原俊介. 「拒絶の敏感さは関係構築反応を促進するか？」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 森丈弓・菅藤健一・高橋哲・丸山もゆる・相澤優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤淳・大淵憲一. 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(3).」 日本犯罪心理学会第 74 回大会 沖縄国際大学, 2009.
- 森丈弓・高橋哲・菅藤健一・丸山もゆる・相澤優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤淳・大淵憲一. 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(4)」 日本犯罪心理学会第 75 回大会 目白大学, 2010.
- 森丈弓・高橋哲・菅藤健一・三谷厚・丸山もゆる・相澤優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤淳・大淵憲一 「YLS による再犯予測テーブルの作成」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 長崎英美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之. 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に—」 日本社会心理学会第 73 回大会, 2009.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一. 「非行集団の組織性が集団同一化に及ぼす効果: 集団境界透過性の調整効果」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 夏堀百合奈 「社会的比較と課題習熟度が社会的促進に与える影響について」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 夏堀百合奈・大淵憲一 「社会的促進・抑制と社会的比較の関連について」 日本社会心理学会第 54 回大会, 2013.
- 西村玲 「完全主義の類型と自己嫌悪感の関連」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 西村玲・清水健司 「完全主義の類型と自己嫌悪感の関連 —非完全主義者という観点を加えて—」 日本心理学会第 76 回大会, 2012.
- 西村玲・大淵憲一 「完全主義者における許容目標のあり方」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 朴香花・鶴巻正子. 「機能的アセスメントに基づき幼稚園の担任と一緒に作る行動支援計画」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009.
- 朴香花・鶴巻正子. 「自閉症幼児に対する機能的アセスメントを用いた個別の

- 指導計画の作成」 日本自閉症スペクトラム学会第 8 回大会, 2009.
- 朴香花・鶴巻正子. 「幼稚園における個別の指導計画の作成状況－福島県内の幼稚園を対象とした質問紙調査の結果分析－」 日本特殊教育学会第 47 回大会, 2009.
- 小形佳祐・福野光輝 「嬉しい嘘を見抜けるか」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 小形佳祐・阿部恒之 「覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム－生活リズムの観点から－」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 岡部梨奈子・森丈弓・須藤明 「大学生におけるサイバーストーキング被害の分析」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 岡本吉生 「夫婦葛藤における妻の対処行動」 日本応用心理学会第 79 回大会, 2012.
- 岡本吉生 「知的障害のある犯罪者の支援：家族，地域，社会の連携から」 日本犯罪心理学会第 49 回大会, 2011.
- 岡本吉生・大淵憲一・安香宏・瓜生武・杉原紗千子・渡辺昭一 「犯罪心理学のこれまでとこれから」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 岡本吉生・岡本潤子 「離婚と子ども」 日本家族研究・家族療法学会地域ワークショップ in 長崎, 2012.
- 岡本吉生・市村彰英・吉川好昭・須藤明 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究（その 1）－量的な観点から－」 日本家族研究・家族療法学会, 2013.
- 岡本吉生・山口恵美子・棚村政行 「離婚と子どもの面会交流－新しい家族臨床の課題を学ぶ－」 日本家族研究・家族療法学会第 30 回東京大会ワークショップ, 2013.
- 小野間統子・湊本潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による酩酊感の心理学的検討」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 大沼卓也・湊本潤・坂井信之 「視覚的意思決定の初期段階における視線の偏り：注視パターン別の初回滞留時間の検討」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 大沼卓也・湊本潤・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評定に及ぼす影響」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 大沼卓也・荒木茂樹・坂井信之 「ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 大沼卓也・坂井信之 「ロコミ情報がカレーのおいしさ評定に及ぼす影響」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.

- 齋藤五大・巖島行雄 「知覚情報と事前知識が行為の意図理解に及ぼす影響の検討」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 齋藤五大・巖島行雄・大井京・齋藤洋典 「動作の出現頻度の変化に対する「気づき」が動作理解に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 齋藤五大・巖島行雄・大井京・齋藤洋典 「視覚情報と先行知識が動作の理解に及ぼす影響—NIRS を用いた動作の予期に関わる神経基盤の検討—」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 齋藤愛雅・松岡和生 「色字共感覚(Grapheme-Color Synesthesia)の認知特性-日本語を含む検出テスト開発の試み-」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 齋藤愛雅・松岡和生 「色字共感覚(Grapheme-Color Synesthesia)の認知特性-共感覚者の創造的特性についての検討-」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「葛藤回避と集合的勘違い：社会的調和に基づく価値との関連」 科学技術と日本人の価値意識研究ワークショップ, 2009.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「日本人の葛藤回避における性差：親密性に注目して」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 齋藤高史・大淵憲一・川嶋伸佳. 「日本人における社会的調和」. 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 齋藤高史. 「日本人における社会的調和価値：抗議行動と政治的コミュニケーションとの関連」 社会的葛藤研究会第 1 回ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史. 「日本人の葛藤回避と社会的調和価値：葛藤回避の抑制メカニズムを探る」 科学技術と日本人の価値意識第 2 回研究ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史・山本雄大・大淵憲一. 「携帯メールの即返行動：集合的勘違いか?」 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 2011.
- 齋藤高史. 「集合的勘違いが携帯メールの即返行動を促進するのか?」 社会的葛藤研究会第 2 回ワークショップ, 岩手県立大学, 2011.
- 齋藤高史・山本雄大・大淵憲一 「携帯メールの即返行動：集合的勘違いか?」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形成に及ぼす影響」 日本味と匂学会第 46 回大会, 2012.
- 櫻井研三・鈴木結花・坂本修一・行場次朗・鈴木陽一 「視覚と前庭覚のクロスモーダルな随伴性残効について」 電子情報通信学会（ヒューマン情報処理研究会）, 2010.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「シングリズム：独身者差別は存在するか?」

- 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「独身者差別における結婚関連信念の影響」 日本社会心理学会第 53 回大会, 2012.
- 佐藤拓・仁平義明. 「消防士の高所恐怖」 日本感情心理学会第 17 回大会, 2009.
- 佐藤拓・山本佳子・富田 香. 「回復力共有体験によるメンタルヘルスへの影響」 日本学生相談学会第 27 回大会, 2009.
- 佐藤拓・兼田康宏・住吉チカ・住吉太幹・曾良一郎. 「Measurement and Treatment Research to Improve Cognition in Schizophrenia (MATRICS) 検査バッテリー日本語版の開発」 第 19 回日本臨床精神神経薬理学会・第 39 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 2009 年.
- 関向諒太・岡本卓也・今井章 「不決断傾向とサポートタイプが意思決定場面における情報探索にあたえる影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 柴田寛・乾敏郎・小川健二 「社会的な文脈で行われる手の動作の理解における下前頭回の役割」 第 34 回日本神経科学大会, 2011.
- 柴田寛・高橋純一・行場次朗 「立礼動作に対する主観的印象の検討」 日本認知科学会第 29 回大会, 2012.
- 柴田理瑛・久保寺俊朗・櫻井研三 「側方頭部運動に連動した運動刺激と運動視差奥行刺激との視野闘争」 第 13 回 VR 心理学研究会, 2009.
- 柴田理瑛・行場次朗 「ターゲットの運動方向が運動誘発盲における知覚的消失に及ぼす影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一. 「運動誘発盲により主観的に消失した標的の知覚を即座に回復させる音の効果」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 柴田理瑛・斉藤昂之・行場次朗. 「断続音聴取時に生じる運動物体の速度知覚の遅延」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 柴田理瑛・行場次朗 「断続的な聴覚刺激呈示が運動物体の速度知覚に及ぼす影響」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・阿部恒之. 「性別判断における顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之. 「ときめきは表情にあらわれるか」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之. 「ときめいている顔の表情と魅力」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.

- 生島浩. 「リスク・ファミリーの臨床」 日本家族研究・家族療法学会第 27 回大会, 大会長講演, 2010.
- 須藤明・岡本吉生・村尾泰弘 「裁判員裁判における経験科学の寄与」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 須佐一行・瀬戸口智裕・大西一起・外川江美 「性非行のリスク要因に関する一研究」 日本犯罪心理学会第 51 回大会, 2013.
- 鈴木結花・行場次朗. 「粗さの触知覚におよぼす聴覚情報の影響—粗さ情報の一緻性と空間配置の観点から—」 第 1 回多感覚研究会, 2009.
- 鈴木結花・行場次朗. 「粗さの触知覚におよぼす聴覚情報の空間配置の影響」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 鈴木結花・寺本渉・行場次朗. 「多感覚情報の順序判断」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 鈴木結花. 「幼児を対象とした意味処理に関する ERP 研究 (ワークショップ「幼児期の認知発達とその脳内機構の探求: ERP, MRI, NIRS を用いた試み」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「触運動知覚を変容させる聴覚・触覚刺激の時間特性」 第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「運動情報のない聴覚刺激による触覚運動知覚の変容」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 立花良・川畑秀明 「ミスディレクションによる視覚的注意の検討」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 立花良・川畑秀明 「ミスディレクションが変化の検出に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 立花良・川畑秀明 「Social misdirection がトリック検出に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 高橋純一・鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・加藤幸子・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼稚園年長期における母語意味処理に関わる ERP におよぼす非母語活動の影響」 第 11 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターン空間位置記憶における感性情報処理と物理特性の関連」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「パターン認知における冗長度からは予測できない感性特性の検討」 日本認知心理学会第 7 回大会, 2009.
- 高橋純一・行場次朗 「視覚パターンの冗長度と認知的情報負荷量の関連」 日

- 本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗. 「視覚パターンの接近/後退運動が好みの形成に及ぼす影響」 日本感性福祉学会第 9 回大会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「視覚刺激の冗長度に依存して変容する反復の見落とし現象における聴覚刺激の効果」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「反復の見落とし現象における視聴覚相互作用に視覚パターンの冗長度が及ぼす影響」 第 1 回多感覚研究会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「視覚パターンの冗長度が反復の見落とし現象における視聴覚相互作用に及ぼす影響」 電子情報通信学会 (HIP), 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動によって変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「視覚表象の符号化に要する情報負荷量が反復の見落とし現象に及ぼす影響」 日本イメージ心理学会第 11 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「視覚刺激の冗長度が反復の見落とし現象に及ぼす影響とその時間特性に関する検討」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターン認知に影響を及ぼす主要な感性因子の推定」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的短期記憶を変容させる拡大/縮小運動」 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動が視覚的短期記憶に及ぼす影響とその時間特性の検討」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的短期記憶の保持時間に依存して変容する拡大・縮小運動情報の優位性」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的選好 (visual preference) に依存して変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数における視覚的短期記憶容量の違い」 日本教育心理学会第 53 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「視覚表象と聴覚表象の長期持続性の違いについて」 東北心理学会第 65 回大会, 2011.

- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動情報に依存して変容する視覚的短期記憶容量」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量の関連」 電子情報通信学会 (HIP), 2011.
- 高橋純一・日高聡太・寺本渉・行場次朗 「視覚パターンの情報負荷量が視覚表象の符号化および記憶保持過程に及ぼす非対称的な影響—反復の見落とし現象を指標として—」 日本基礎心理学会第 30 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗・山脇望美 「健常者における自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量」 日本認知心理学会第 10 回大会, 2012.
- 高橋純一・行場次朗・山脇望美 「健常大学生における自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量の個人差」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 高橋純一・安永大地 「心的イメージ鮮明性の個人差と仮現運動:ERP を指標として」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 高橋純一 「低出生体重児の認知特性の解明と発達支援への応用」 日本特殊教育学会第 51 回大会自主シンポジウム, 2013.
- 高橋純一・玉木宏樹・鶴巻正子 「発達障害/発達障害が疑われる児童の心的操作に関する予備的検討」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 高橋純一・村井諒平・平野智久・行場次朗 「視覚情報処理段階に依存して変容するネガティブ顔/ポジティブ顔優位性効果」 東北心理学会第 66 回大会, 2013.
- 高橋純一・玉木宏樹・山脇望美 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数及び愛着スタイルの個人差と社会スキルとの関連」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 高橋哲・森丈弓・角田亮・岡部梨奈子 「矯正施設における処遇プログラムの効果検証を巡る諸問題(3)」, 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 玉木宏樹・高橋純一 「大学生の愛着スタイルとソーシャルスキルとの関連」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗・柴田理瑛. 「速度錯覚における視聴覚相互作用の検討」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激によって生じる大きさ錯視」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激によって引き起こされる大きさ錯視」 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 竹島康博・行場次朗. 「情報負荷量が分裂錯覚 (“fission” illusion) の生起に与え

- る影響の検討」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗. 「視覚刺激形状の情報負荷量操作による分裂錯覚の特性の検討」 第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗. 「視聴覚相互作用による大きさ錯視」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗. 「視聴覚統合が即時数量把握に及ぼす影響」 北海道・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗. 「知覚処理効率に依存して生起する分裂錯覚」 日本心理学会第 75 回大会, 2011. 竹島康博・行場次朗. 「課題によって変容する聴覚手掛りと視覚手掛りの処理促進効果」 日本基礎心理学会第 30 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗. 「数量把握処理に聴覚刺激が与える影響」 第 3 回多感覚研究会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「視覚パターンの複雑さの操作が分裂錯覚に与える影響」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚情報によって変容する視覚運動軌道」 日本認知心理学会第 10 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激のピッチ変化が引き起こす視覚運動軌道錯覚」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激が注意の瞬きに与える影響における視野非対称性」 日本心理学会第 76 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「音による視覚表象形成の促進効果と物体構成要素数との関連」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「視聴覚統合における視覚表象形成における視野非対称性」 日本基礎心理学会第 31 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「視聴覚統合における時空間処理の視野非対称性」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激によって変容する物体の大きさ知覚」 第 4 回多感覚研究会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗. 「物体構成要素数による処理負荷が視聴覚統合に与える影響」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 竹島康博・行場次朗. 「聴覚刺激による即時数量把握処理の促進効果」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 竹島康博・行場次朗. 「視覚と聴覚による注意誘導／誘引が及ぼす影響の違い」

- 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 田村達. 「非人間的ラベリングが対象の感情表出への反応に及ぼす効果」 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：評価技術実習と総合実習での葛藤解決方略」 第 43 回日本作業療法学会, 2009.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 日本リハビリテーション学校協会第 23 回教育研究大会・教員研修会, 2010.
- 手島啓文・大淵憲一. 「プライミングが道徳的行動に与える効果の心理学的検討」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 張燕・阿部恒之 「美容整形意識の日韓比較 -ソウルにおける面接調査-」 日本感情心理学会第 20 回大会, 2012.
- 張燕・阿部恒之 「東アジアにおける美容整形の意識の比較」 東北心理学会第 66 回大会 新潟心理学会第 49 回大会 合同大会, 2012.
- 上原俊介. 「自己利益か？公正か？関係規範が怒りの動機に及ぼす影響」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 上原俊介・森丈弓・国佐勇輔. 「共有的志向性が怒りの動機に及ぼす影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 上原俊介・中川知宏. 「関係規範の違反と怒り感情：公正な状況に対する怒り反応」 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓. 「怒り表出における絆促進の規定因とその効果」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 上原俊介・国佐勇輔・岩淵絵里. 「義憤としての怒りを探る：拉致行為に対する怒り喚起反応の差異」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里 「道徳的違反に対する怒り：義憤の怒りを規定する状況要因の検討」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里 「道徳的違反に対する怒り：義憤の怒りを規定する状況要因の検討」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・田村達 「道徳的違反に対する義憤としての怒り感情: Justice Sensitivity は義憤を喚起させるか？」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2012.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・森 丈弓・小形佳祐 「何が義憤の怒りを生起

- させるか？公正と配慮の道德観」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齋藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 浦尾洋旭・小粥展生・雨宮一洋・天野史織・竹内由希・射場優子・近藤日出夫 「非行少年のリスクとレジリエンスに関する研究(6)」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「防災意識の国際比較研究」 東北心理学会第 24 回大会, 2010.
- Wiwattanapantuwong, Juthatip・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響—タイにおける面接調査—」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回大会, 2011.
- Wiwattanapantuwong, Juthatip・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響—日本とタイの国際比較—」 日本感情心理学会第 19 回・日本パーソナリティ心理学会第 20 回合同大会, 2011.
- Wiwattanapantuwong Juthatip・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災における逸脱行動とその許容性に関する実態調査」 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学生田キャンパス, 2012.
- Wiwattanapantuwong Juthatip・張燕・本多明生・阿部恒之 「韓国における東日本大震災の評価」 東北心理学会第 66 回大会 新潟心理学会第 49 回大会, 新潟大学, 2012.
- Wiwattanapantuwong Juthatip・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災の復興活動に対する感情評価」 日本感情心理学会第 20 回大会, 神戸大学, 2012.
- Wiwattanapantuwong Juthatip・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差」 日本感情心理学会第 21 回大会, 東北大学, 2013.
- 山本麻奈・森丈弓・牛木潤子 「薬物事犯受刑者の対処スキルと再犯との関連について」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的差別への接触がもたらす低地位集団成員への否定的影響」 日本社会心理学会第 50 回大会, 2009.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的性差別への接触が女性のパフォーマンスと性役割受容に与える影響」 GCOE 若手研究者のためのワークショップ, 2009.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的性差別への接触が女性の自己評価に与える否定的影響」 日本社会心理学会第 50 回大会 院生リーグ, 2009.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「喫煙者に対する否定的ステレオタイプと差別」

- 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 山本雄大・佐藤潤美 「シングリズムに対する結婚の制御可能性認知の影響」 日本応用心理学会第 79 回大会, 2012.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「喫煙者に対する否定的ステレオタイプと差別」 日本社会心理学会第 53 回大会, 2012.
- 山脇望美・大淵憲一 「CRTA による攻撃性の測定」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回大会, 2011.
- 山脇望美・高橋純一・畠山孝男 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数と視覚イメージ鮮明性との関連」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.

3 大学院生・学部生の受賞状況

2009 年度

- 引地博之(DC) 日本社会心理学会若手研究者奨励賞
- 鈴木結花(DC) 日本基礎心理学会第 28 回大会優秀発表賞
- 日高聡太(DC) 日本基礎心理学会第 28 回大会優秀発表賞
- 菊地史倫(DC)他 第 7 回日本認知心理学会優秀発表賞 (発表力評価部門)

2010 年度

- 高橋純一 (DC) 日本基礎心理学会第 29 回大会優秀発表賞

2011 年度

- 遠藤光男(DC)他 日本基礎心理学会優秀論文賞

2012 年度

- 高橋純一(DC)他 第 10 回日本認知心理学会優秀発表賞 (総合性評価部門)
- 竹島康博(DC) 日本基礎心理学会第 31 回大会優秀発表賞
- 柿崎星哉 日本基礎心理学会第 31 回大会優秀発表賞

2013 年度

- Wiwattanapantuwong Juthatip (DC) 日本感情心理学会第 21 回大会独創研究賞
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 日本感情心理学会第 21 回大会発表賞 (グッド・プレゼンテーション賞)

4 日本学術振興会研究員採択状況

- 2009 年度 3 名 (DC1 0 名、DC2 3 名、PD 0 名)
- 2010 年度 1 名 (DC1 1 名、DC2 0 名、PD 0 名)

2011年度 2名 (DC1 0名、DC2 0名、PD 2名)
 2012年度 1名 (DC1 1名、DC2 0名、PD 0名)
 2013年度 1名 (DC1 0名、DC2 0名、PD 1名)

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2009年度 学部 計1名 マルク・ブロック大学 (フランス)
 2013年度 学部 計1名 ハワイ大学 (アメリカ合衆国)

5-2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
09	2	1	3
10	1	1	2
11	1	4	5
12	0	3	3
13	1	0	1
計	5	9	14

6 社会人大大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	1	1
10	0	2	2
11	0	4	4
12	0	1	1
13	0	0	0
計	0	8	8

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

佐藤拓 (いわき明星大学) 2009年度
 池田和浩 (尚絅学院大学) 2009年度
 日高聡太 (立教大学) 2009年度
 菊地史倫 (鉄道総合技術研究所) 2009年度
 田村達 (岩手県立大学) 2009年度

鶴巻正子（福島大学）2009 年度
山本佳子（いわき明星大学）2009 年度
中川知宏（近畿大学）2010 年度
渥美恵美（東北福祉大学）2010 年度
柴田理瑛（東北福祉大学）2010 年度
鈴木結花（東北大学）2010 年度
川嶋伸佳（東北大学）2011 年度
遠藤光男（琉球大学）2013 年度
高橋純一（国立精神・神経医療研究センター）2013 年度
鈴木結花（株式会社花王ビューティサイエンス研究所）2013 年度
引地 博之（日本福祉大学健康社会研究センター）2013 年度
上原俊介（東北大学）2013 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2009 年度 0 名
2010 年度 0 名
2011 年度 1 名
2012 年度 0 名
2013 年度 5 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

Tohoku Psychologica Folia（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北心理学会事務局（1949 年度～現在）

東北グループダイナミックス研究会（1990 年度～現在）

日本認定心理士会北海道・東北支部事務局（2012 年度～現在）

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

日本基礎心理学会フォーラム (2009年3月13日)

国際多感覚研究フォーラム (2011年10月17～20日)

日本イメージ心理学会第13回大会 (2012年9月29、30日)

日本認知科学会第29回大会 (2012年12月13～15日)

日本感情心理学会第21回大会 (2013年5月11～12日)

日本顔学会第18回大会 (2013年11月9～10日、予定)

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

心理学専攻分野としての研究活動、教育活動ともに、毎年、着実な努力と進展がみられる。2009年度から2013年度まで、学部学生、大学院生は文学部・文学研究科内でも所属院生・学生数が多い専攻分野の一つである。

1933年以来、心理学研究室では、日本で最も古い欧文心理学学術誌として『Tohoku Psychologica Folia』誌を刊行している。2013年で、巻数は71巻を数える。本誌は、古くから心理学の国際的抄録誌『Psychological Abstracts』の収録対象誌であり、同時にデータベース『PsycLIT』の収録対象誌になっている。海外からの投稿論文も掲載されている。継続的な国際発信の努力のあらわれであるといえる。

心理学専攻分野では、教員の研究は質量ともに優れた水準にあり、その結果は教育に効果的に反映されている。幸い現在、教員定員6名がすべて充足されているために、学生の研究のニーズに応じられる教育領域の幅広さが確保されている。

課程博士の授与数は過去5年間(2013年度は9月末まで)で17名であり、毎年、後期課程の定員3にほぼ見合った数の課程博士を輩出している。

大学院生が国際学会において発表を行った件数は合計69件に及び、文学研究科でも突出している。これは、国内の各大学が国際学会を開催する努力をしてきたことにも起因するが、自発的に国外で発表を行う大学院生の増加をも反映しているといえる。2009～13年の間に、11名の大学院生がそれぞれの学会で学会賞を受賞したことは、特筆に値する。社会人大大学院生も、大学教員のほか、医師、看護師、矯正関係機関など近接領域からの入学もみられる。

国外からの留学生も学部学生、大学院生とも例年コンスタントに受け入れており、国際貢献を果たしている。

官公庁や産業界、自治体、教育界からの貢献の要請にも、共同研究や研修講師、講演および特別講義、各種委員などのさまざまなかたちで、十二分に応えている。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013 年度）

1 教員の論文発表等

1-1 論文

仁平義明教授

Honda, A. & Nihei, Y. 「Sex differences in object location memory: The female advantage of immediate detection of changes.」. 『 Learning and Individual Differences』, 19, 234-237, 2009.

仁平義明 「人間力育成のパラダイム・シフト—ハーディネス（心の頑強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ—」 岡堂哲雄編『心理臨床フロンティア—倫理の再構築に向けて』, 『現代のエスプリ』 500 号, 194-205, 2009 年.

池田和浩・仁平義明 「ネガティブな体験の肯定的な語り直しによる自伝的記憶の変容」. 『心理学研究』, 79, 481-489, 2009 年.

佐藤拓・仁平義明 「青年期のキャリア・レジリエンス—進路決定のリスク要因・促進要因」. 『東北大学学生相談所年報』, 第 3 号, 23-27, 2009 年.

Sato, T. & Nihei, Y. 「Contrasting tactics in deceptive impression management.」. 『Social Behavior and Personality: An international Journal』 1, 37, 267-281, 2009.

Sato, T. & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception.」. 『Psychological Reports』, 104, 759-769, 2009.

Murakawa, Y. & Nihei, Y. 「Understanding the concept of a ‘good death’ in Japan: Differences in the views of doctors, palliative care and non-palliative ward nurses.」. 『International Journal of Palliative Nursing』, 15, 226-233, 2009.

山本佳子・仁平義明 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援—学生相談のもう一つの方向—」, 『学生相談研究』, 30, 12-22, 2009.

Saeki, S. & Nihei, Y. 「A longitudinal investigation of cultural adjustment and mood changes in two university students studying abroad.」 『Tohoku Psychologica Folia』, 68, 25-37, 2009.

Tsurumaki, M., Sato, T., & Nihei, Y. 「The effect of negatively worded measures of self-esteem on children.」 『Social Behavior and Personality』, 37, 1383-1384, 2009.

大淵憲一教授

大淵憲一 「怒りを活用する心理教育」 『現代のエスプリ』, 第 503 号, 185-195, 2009.

- 大淵憲一 「健全な自己愛を育てる」『児童心理』, 第 899 号, 32-38, 2009.
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」『社会心理学研究』, 第 24 卷, 200-207, 2009.
- 高田奈緒美・大淵憲一 「対人葛藤における寛容性の研究: 寛容動機と人間関係」『社会心理学研究』, 第 24 卷, 208-218, 2009.
- 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一 「地域に対する愛着の形成機構: 物理的環境と社会的環境の影響」『土木学会論文集』, 第 65 卷, 101-110, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会階層と公正感: 多元的公正判断と社会的属性の関係」『文化』, 第 73 卷, 83-99, 2009.
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「日本の伝統的価値尺度の作成: 仏教、儒教、神道・国学思想に基づいて」, 『文化』, 第 73 卷, 110-140, 2009.
- 大淵憲一 「犯罪理論の新展開: 統制理論と緊張理論」, 『東北大学文学研究科年報』, 第 59 卷, 206-232, 2009.
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「現代日本人による伝統的価値の受容: 社会属性との関連」, 『文化』, 第 73 卷, 21-46, 2009.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Kunisa, Y., & Ohbuchi, K. 「Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives」『Tohoku Psychologica Folia』 第 68 卷, 38-48, 2009.
- Tracet, A., Rasclé, O., Souchon, N., Coulomb-Cabagno, G., Petrucci, C., & Ohbuchi, K. 「Aggression in soccer: An exploratory study of accounts preference」『Research Quarterly for Exercise and Support』, 第 80 卷, 398-402, 2009.
- Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and “Good Member” image」『Negotiation and Conflict Management』, 第 3 卷, 117-129, 2010.
- 大淵憲一 「民族間の融和は可能か: 接触仮説の可能性」『TASC Monthly』, 第 414 号, 8-13, 2010.
- 大淵憲一 「日本思想からみた正義・公正観念: 社会心理学的検討. 平成 19 年度～21 年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究、課題番号 19653060) 研究成果報告書」2010.
- 大淵憲一 「日本における社会階層と価値観」『東北大学文学研究科年報』 60 卷, 107-128, 2010.
- Takaku, S., Green, J. D. & Ohbuchi, K. 「A cross-national examination of the perpetrator-victim account estimation bias as a function of different types of

- accounts」『Asian Journal of Social Psychology』,第13巻、274-285、2010.
- 大淵憲一「家族と暴力:現代日本の「車輪の下」」『家族療法研究』第27巻、227-233、2010.
- 大淵憲一「反社会性の行動遺伝学」『青少年問題』第57巻(秋季号、No.640)、2-7、2010.
- 渥美恵美・大淵憲一「作業療法学生の社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」『応用心理学研究』,第36巻、114-123、2011.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証—臨床実習指導者評価を用いて」『感性福祉研究所年報』第12巻、163-174、2011.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一。「関係規範の違反に対する怒り感情:人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」『実験社会心理学研究』第51巻、32-42、2011.
- Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An interpretation from closeness」『Tohoku Psychologica Folia』第69巻、1-7、2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」『Tohoku Psychologica Folia』第69巻、40-52、2010.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」『Tohoku Psychologica Folia』第70巻、10-20、2011.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's Task Performance」『Tohoku Psychologica Folia』第70巻、36-43、2011
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子「多元的公正感と抗議行動:社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」『社会心理学研究』第27巻、63-74、2011
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子「社会的不平等とミクロ公正感:不公正感受性の効果」『法と心理』第11巻、47-57、2011
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓・清水かな子・大淵憲一「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情:知覚された欲求責任違反の媒介的役割」『社会心理学研究』第27巻、161-173、2012.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」『Japanese Psychological Research』第54巻、137-149、2012.

- 上原俊介・中川知宏・森丈弓・国佐勇輔・大淵憲一「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」『文化』第75巻, 40-55, 2012.
- Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony」『International Journal of Conflict Management』第24巻, 112-125, 2013.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「True and hollow forgiveness, forgiveness motives, and conflict resolution」『International Journal of Conflict Management』第24巻, 184-200, 2013.
- 大淵憲一「心理学における正義研究パラダイム」『法社会学』第78巻, 74-83, 2013.
- 八田武俊・大淵憲一・八田純子「日本語版怒り反すう尺度作成の試み」『応用心理学研究』第38巻, 231-238, 2013.
- Hatta, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of spatial distance spreading on social presence, negotiation continuation norm and exit behavior in the electronic negotiation」『Journal of Media and Communication Studies』第5巻, 52-55, 2013.
- 山脇望美・山本雄大・熊谷智博・大淵憲一「攻撃性の顕在的・潜在的測度による攻撃行動の予測」『社会心理学研究』, 印刷中.

行場次朗教授

- Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on communication and collision avoidance behavior from playing a three-dimensional auditory game based on a virtual auditory display」『Applied Acoustics』, 70, 868-874, 2009.
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of the appropriateness of cooperative actions」『Neuroscience Letters』, 452, 189-193, 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「Psychological evaluation of higher-order facial impressions synthesized by the impression transfer vector method」『Kansei Engineering International』, 9(1), 1-10, 2009.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」『Attention, Perception & Psychophysics』, 71, 1294-1304, 2009.
- Suzuki, Y. & Gyoba, J. 「Correspondence of tactile and auditory information modifies the effects of sound on the tactile perception of roughness」『The Journal of Psychonomic Science』, 28, 181-182, 2009.

- 日高聡太・行場次朗 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10, 49-55, 2009.
- 行場次朗 「感性次元の感覚関連性と脳活動」 『感性工学』, 8, 225-227, 2009.
- Hidaka, S., Manaka, Y., Teramoto, W., Sugita, Y., Miyauchi, R., Gyoba, J., Suzuki, Y., & Iwaya, Y. 「Alternation of sound location induces visual motion perception of a static object」 『PLoS ONE』, 4, e8188, 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Spatiotemporally coherent motion direction perception occurs even for spatiotemporal reversal of motion sequence」 『Journal of Vision』, 9, 1-12, 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Location memory of visual patterns modulated by preference」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 28, 163-164, 2009.
- 寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「臨場感の素朴な理解」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 7-16, 2010.
- Teramoto, W., Manaka, Y., Hidaka, S., Sugita, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Visual motion perception induced by sounds in vertical plane」 『Neuroscience Letters』, 479, 221-225, 2010.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can prolong the visible persistence of moving visual objects」 『Vision Research』, 50, 2093-2099, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 72, 387-397, 2010.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Auditory temporal cues can modulate visual representational momentum」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 72, 2215-2226, 2010.
- 寺本渉・吉田和博・日高聡太・浅井暢子・行場次朗・坂本修一・岩谷幸雄・鈴木陽一 「「迫真性」を規定する時空間情報」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 483-486, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can recover suppressed visual awareness in motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010.
- Dailey, M.N., Joyce, C., Lyons, M.J., Kamachi, M., Ishi, H., Gyoba, J., & Cottrell, G.W. 「Evidence and a Computational Explanation of Cultural Differences in Facial Expression Recognition」 『Emotion』, 10, 874-893, 2010.

- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 29, 85-86, 2010.
- Inaba, Y., Kobayashi, R., Ishi, H., Gyoba, J., & Akamatsu, S. 「Impression Transformation of 3D Face Based On Morphable 3D Model of Face and Semantic Differential Method」 『画像電子学会誌』 40, 96-104, 2011
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』 , 69, 246-251, 2011.
- Kawachi, Y., Kawabata, H., Suzuki, M., Shibata, M., Imaizumi, O. & Gyoba, J. 「Topographic distribution of brain activities corresponding to psychological structures underlying affective meanings: An fMRI study.」 『Japanese Psychological Research』 , 361-371, 2011.
- Kawabata, H., Gyoba, J. 「Infants' perception of concavity and convexity of shaded objects」 『Japanese Psychological Research』 , 53, 312-318, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , in press
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』 , in press.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』 , in press.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』 , in press.
- Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」 『Neuroscience Research』 , 73, 73-79, 2012.
- Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded with a weigh」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 , 74, 225-238, 2012.
- Takahashi, J. & Gyoba, J. 「Self-rated autistic-like traits and capacity of visual working

- memory」 『Psychological Reports』 , 110, 879-890, 2012.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Internal criteria underlying affective responses to visual patterns」 『Gestalt Theory』 , 34, 67-80, 2012.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., and Suzuki, Y. 「Sounds can alter the perceived direction of a moving visual object」 『Journal of Vision』 , 12(3), article 11, 2012.
- Teramoto, W., Sakamoto, S., Furune, F., Gyoba, J., Suzuki, Y. 「Compression of auditory space during forward self-motion. 」 『PLoS ONE』 , 7(6), e39402, 2012.
- 行場次朗・寺本渉 「臨場感と迫真性」 『映像情報メディア学会誌』 , 66, 561-563, 2012.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Occluded motion alters event perception.」 『Attention Perception & Psychophysics』 , 75, 491-500, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「High-intensity sound increases the size of visually perceived objects」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 ,75, 501-507, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Changing Pitch of Sounds Alters Perceived Visual Motion Trajectory」 『Multisensory Research』 , 26, 317-332, 2013.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Complexity of visual stimuli affects visual illusion induced by sound」 『Vision Research』 , accepted.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Temporal characteristics of the effects of visual pattern redundancy on encoding and storage processes: Evidence from rapid serial visual presentation.」 『Psychological Research』 , in press.
- Takahashi, J., Gyoba, J., & Yamawaki, N. 「Effect of spatial complexity on visual short-term memory and self-reported autistic-like traits in typically developed individuals.」 『Journal of Autism and Developmental Disorders』 , 43, 1725-1731, 2013.
- Sakamoto, S., Teramoto, W., Furune, F., Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Compression of perceived auditory space during forward self-motion.」 『The Journal of the Acoustical Society of America』 26, 317-332, 2013.

阿部恒之教授,

- 阿部恒之・庄司耀・菊地史倫・樋口貴広 「基本精油のストレス緩和効果—印象と反応の関連」 『アロマセラピー学雑誌』 , 9, 60-78, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「弁明としてのウソが利益とコストの

- 評価に及ぼす影響」『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫 「学生のQOLに影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に」『早稲田大学臨床心理研究』, 8, 53-66, 2009.
- 阿部恒之・佐藤智穂・遠藤光男 「目の大きさ知覚に及ぼすアイシャドーの効果—まぶたの影の位置・範囲・濃さを操作した実験的検討」『日本顔学会誌』, 9, 111-118, 2009.
- 阿部恒之・庄司耀・菊地史倫 「嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示」『感情心理学研究—特集・化学感覚の感情心理学』, 17, 2, 84-93, 2009.
- 阿部恒之 「仁平教授の業績と学風」『文化』, 73(3・4), 13-18, 2010.
- 今野晃嗣・荒井沙穂理・阿部恒之 「顔だちマップを用いた犬種の形態印象の分類」『日本顔学会誌』, 10, 63-72, 2010.
- 河島三幸・設楽茉莉絵・阿部恒之 「ときめきによる女性の表情と魅力の変化」『日本顔学会誌』, 11, 107-115, 2011.
- 阿部恒之 「化粧と感情の心理学的研究概観」『におい・かおり環境学会誌』, 42, 5, 338-343, 2011.
- 阿部恒之 「化粧心理学のご紹介」『コスメチックレポート—コスメチックからのメッセージ』, 200, 8, 2011.
- 遠藤光男・桐田隆博・阿部恒之 「顔の部品検出に及ぼす全体情報の効果」『基礎心理学研究』, 29(2), 130-143, 2011.
- 阿部恒之 「姿を整えていきいきと」『ふれあいケア』, 18(5), 21-24, 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong, Chia-jung Lee, Akio Honda, & Tsuneyuki Abe “Taiwanese perceptions of Japan and the use of nuclear power after the 2011 East Japan earthquake and tsunami disaster: An examination of the role of media and heuristic cues”, *Tohoku Psychologica Folia*(2011), 70, 44-55, 2012.
- 阿部恒之 「日常生活の錯視—森川論文へのコメント」, 『心理学評論』, 55(3), 362-366, 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「人格を代表するのは顔・身体の中のどの部位か—最期の別れで触れる場所」, 『日本顔学会誌』, 13, (印刷中, 2013年10月発行予定).
- 菊地史倫・秋田美佳・阿部恒之 「嗅覚がリップクリームの使用感に与える影響」, 『心理学研究』, 84, 5, (印刷中, 2013年12月発行予定).

坂井信之准教授

- 碓哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミントによる C57BL/6 マウスの甘味、苦味、うま味応答の抑制」 『日本味と匂学会誌』, 18(3), 273-276, 2011.
- 坂井信之・藤本まなみ・村田恵 「うま味と相乗効果を示す香料の選定」 『日本味と匂学会誌』, 18(3), 375-378, 2011.
- 松井千笑・神田光荣・坂井信之 「食べている人を見ることで摂取量は増大するか? (による共著『日本味と匂学会誌』, 18(3), 273-276, 2011.
- 吉松宏苑・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽・碓哲崇 「ミント系香料のアロマとフレーバーの違いー 心理評価と NIRS による脳機能の計測の関連性ー」 『日本味と匂学会誌』, 18(3), 423-426, 2011.
- 神田光荣・坂井信之 「香水が人物の印象形成に及ぼす影響」 『日本味と匂学会誌』, 18(3), 579-582, 2011.
- 坂井信之 「香りの活用でビジネスの可能性が広がる」 『週刊エコノミスト』, 2011年 12/20 新年特大号, 2011.
- 坂井信之 「食品・日用品の認知と評価～味覚と嗅覚の複合感覚を中心に～」 『日本官能評価学会誌』, 16, 21-24, 2012.
- 坂井信之 「共食することによって生じる「おいしさの亢進」に関する行動科学的研究」 『公益財団法人アサヒビール学術振興財団食生活科学・文化及び環境に関する研究助成研究紀要』, 第 25 巻 (2010 年度) 2012.
- Sakai, N., Yoshimatsu, H., Ikenishi, T., Niikura, Y., Kondo, N. and Sako, N. 「The promoting effect of mint odor on recovery from the mental stress evoked by simple summation task.」 『Tohoku Psychological Folia』, 70, 26-35, 2012.
- 坂井信之 「においを感じるメカニズム」 『臨床看護』, 38, 1806-1809, 2012.
- 坂井信之 「におい・かおりに関する評価法」 『臨床看護』, 38, 1810-1812, 2012.
- 坂井信之 「におい・かおりの特性」 『臨床看護』, 38, 1813-1815, 2012.
- 坂井信之 「においの用語解説」 『臨床看護』, 38, 1874-1875, 2012.
- 碓哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミントによる味覚抑制はカルボン酸に起因する」 『日本味と匂学会誌』, 19, 333-336, 2012.
- 坂井信之・大沼卓也・今田純雄 「選択することがカレーのおいしさ評定に及ぼす効果」 『日本味と匂学会誌』, 19, 409-412, 2012.
- 神田光荣・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評定

- における共食の影響」 『日本味と匂学会誌』, 19, 413-416, 2012.
- 坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形成に及ぼす影響」 『日本味と匂学会誌』, 19, 469-472, 2012.
- 坂井信之・斉藤幸子 「脳計測でにおいをはかる- fMRI (機能的核磁気共鳴画像法)・NIRS (近赤外分光法) で測る-」 『Aroma Research』, 14, 23-28, 2013.
- 坂井信之 「五感と香りの心理メカニズム」 『嗅覚と匂い・香りの産業利用最前線』 (株式会社エヌ・ティー・エス), pp.145-154, 2013.
- 大和久美紀・坂井信之 「香りによる対人印象・魅力の変化」 『Fragrance Journal』, 2013-3, 81-86, 2013.
- 田中観自・陳娜・坂井信之・渡邊克巳 「食器の材質・質感における感覚間統合が味覚評価に及ぼす影響」 『電子情報通信学会技術報告』, 113(128), 7-10, 2013.
- 坂井信之 「消費者はどのようにしておいしさを感じているのか？」 『ソフト・ドリンク技術資料』, 170, 2013年8月刊行予定
- 坂井信之 「おいしさ認知における脳の働きと商品開発、マーケティングへの応用」 『顧客も気づいていない将来ニーズの発掘と新製品開発への活用』 (情報技術協会), 2013年8月出版予定

辻本昌弘准教授

- Koike, S., Nakamaru, M. & Tsujimoto, M. 「Evolution of cooperation in rotating indivisible goods game」 『Journal of Theoretical Biology』, 264, 143-153, 2010.
- 辻本昌弘・KUDA Alejandro 「アルゼンチン日系人の生活と体験—20世紀前半のブエノスアイレスを中心に—」 『文化』, 76, 1-22, 2012.
- 廣瀬文章・辻本昌弘 「地域社会における伝統の継承」 『質的心理学研究』, 12, 66-81, 2013.

上原俊介助教

- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Kunisa, Y., & Ohbuchi, K. 「Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives」 『Tohoku Psychologica Folia』, 68, 38-48, 2009.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 40-52, 2010.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タ

- イブ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」『実験社会心理学研究』, 51, 32-42, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一 「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」『文化』, 75, 40-55, 2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 10-20, 2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」『Japanese Psychological Research』, 54, 137-149, 2012.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・清水かなこ・大淵憲一 「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情: 知覚された欲求責任違反の媒介的役割」『社会心理学研究』, 27, 161-173, 2012.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Tamura, T., & Mori, T. 「Anger in close relationships: Relationships, perceived violation of responsibility for needs, and feelings of anger」『Tohoku Psychologica Folia』, 71, 33-41, 2012.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里・田村 達・森 丈弓 「道徳的違反に対する怒り感情: 義憤を規定する状況要因の検討」『社会心理学研究』, 28, 158-168, 2013.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齊藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」『文化』, 印刷中.

柴田寛助手 (2011 年度の業績)

- Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」『Neuroscience Research』, 73, 73-79, 2012.
- Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded with a weigh」『Attention, Perception, & Psychophysics』, 74, 225-238, 2012.

1-2 著書・編著

仁平義明教授

<編著>

仁平義明（編著） 『防災の心理学—ほんとうの安心とは何か』 東信堂，2009.

大淵憲一教授

<単著>

大淵憲一 『親を殺すふつうの子どもたち：ありふれた家庭のありふれた期待がもたらす危険』 PHP 研究所、2009.

大淵憲一 『謝罪の研究：釈明の心理とはたらき』 東北大学出版会、2010.

<共同編著>

日本社会心理学会（編）、大坊郁夫（編集委員長）、池上知子、池田謙一、大淵憲一、唐沢かおり、川浦康至、山口裕幸（編集幹事） 『社会心理学事典』 丸善、2009.

日本心理学会倫理委員会（編） 『社団法人日本心理学会倫理規程』 社団法人日本心理学会、2009.

Ohbuchi, K. & Asai, N. (共編著) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011.

高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一（共編著） 『人間科学研究法ハンドブック、第2版』 ナカニシヤ出版、2011.

大淵憲一・戴伸峰（共著） 『犯罪心理學』 台北：雙葉出版社、2012.

阿部恒之・大淵憲一・仁平義明・行場次朗・辻本昌弘・坂井信之（共著） 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社、2012.

<分担執筆>

Ohbuchi, K. & Takada, N. 「Forgiveness for conflict resolution in Asia: Its compatibility with justice and social control」 C. J. Motiel & N. M. Noor（編） 『Peace psychology in Asia』, Springer, 221-236, 2009.

Ohbuchi, K. 「Social class and values in Japan」 K. Ohbuchi & N. Asai（編） 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 印刷中.

Ohbuchi, K. 「Social class and values in Japan」 K. Ohbuchi & N. Asai（編） 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 22-40). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Maintaining the gender gap and benevolent sexism」 K. Ohbuchi & N. Asai（編） 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 115-130). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011.

Ohbuchi, K. 「Preface」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan: Ways to social justice and cooperation』 Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, x-xii, 2011.

大淵憲一 「よりよい社会を求めて」 佐藤嘉倫・木村敏明(編) 『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』 ミネルヴァ書房, 321-336, 2013.

川嶋伸佳・大淵憲一 「不平等と不公正感」 佐藤嘉倫・木村敏明(編) 『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』 ミネルヴァ書房, 299-320, 2013.

行場次朗教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社, 2012年9月.

<分担執筆>

行場次朗 「美」 『よくわかる認知科学』 乾俊郎・吉川左紀子・川口潤 (編) ミネルヴァ書房 pp.138-139 2010年1月

行場次朗 「感性の基本次元と脳内基盤」 『知覚と感性』 三浦佳世 (編) 北大路書房 pp.56-68 2010年8月

Kawabata, H. and Gyoba, J. 「Neural substrates of sensitivity to affective meaning.」 『CARLS series of Advanced studies of Logic and Sensibility』, pp. 10-19, 慶應義塾大学出版会 2011年4月

行場次朗 「形とイメージ」 『感覚・知覚・認知の基礎』 乾敏郎 (編) オーム社 pp.137-151 2012年1月.

阿部恒之教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社, 2012年9月.

<分担執筆>

阿部恒之 「災害と化粧」, 『災害の心理学—ほんとうの安心とは何か』 仁平義明 (編), 東信堂, pp.213-220, 2009年3月.

阿部恒之 「化粧のちから」, 『化粧セラピー／心と体を元気にする新しいちから』, 資生堂ビューティーソリューション開発センター (編), 日経 BP 社, pp.10-20, 2010年3月. .

阿部恒之 「化粧的神奇力量」, 『化粧療癒力』, 資生堂美容解答中心等(編)・陳惠莉(訳), 聯徑出版(台北) pp.10-20, 2011年4月(『化粧セラピー』の台湾版).

阿部恒之 「東日本大震災で体験したこと, 感じたこと, 考えたこと」, 『今を生きる—東日本大震災から明日へ! 復興と再生への提言(1.人間として)』, 座小田豊・尾崎彰宏(編), 東北大学出版会, pp.83-102, 2012年3月.

阿部恒之 「東日本大震災における被災者の生活—助け合いと犯罪」, 『大災害と犯罪』, 法律文化社, pp. 114-131, 2012.

阿部恒之・ジューターチップ=ウィワッターパンツォン・本多明生 「被災者のマナー—体験から立ち上がった課題」, 平川新・今村文彦(編) 『東日本大震災を分析する2・震災と人間・まち・記録』, 明石書店, pp.68-81, 2013.

坂井信之准教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点24』 国際文献印刷社, 2012年9月..

<分担執筆>

坂井信之 「おいしさの心理学」 日下部裕子・和田有史編 『味わいの認知科学—舌の先から脳の向こうまで—』 勁草書房, 2011年10月.

坂井信之 「香りの効能」 熊倉功夫・伏木亨編 『だしとは何か』 アイ・ケイコーポレーション.

辻本昌弘准教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点24』 国際文献社, 2012.

<分担執筆>

Tsujimoto, M. 「Status, selection, and exchange in an Okinawan mutual aid system」 K. Kimura (編) 『Minorities and Diversity』 Trans Pacific Press, pp.100-112, 2011.

辻本昌弘 「文化と自己」 林洋一(監修) 『心の科学』 明星大学出版部, pp.216-234, 2011.

村本由紀子・辻本昌弘 「文化的存在としての人間」 唐沢穰・村本由紀子(編) 『社会と個人のダイナミクス』 誠信書房, pp.266-285, 2011.

Tsujimoto, M. 「Migration, economic adaptation and mutual cooperation: Japanese rotating savings and credit associations in Argentina」 N. Yoshihara (編) 『Global Migration and Ethnic Communities: Studies of Asia and South America』 Trans Pacific Press, pp.163-175, 2012.

辻本昌弘 「マイノリティと不平等—困難を生きる技法—」 佐藤嘉倫・木村敏明 (編著) 『不平等生成メカニズムの解明—格差・階層・公正—』 ミネルヴァ書房, pp. 139-160, 2013.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

大淵憲一教授

大淵憲一 「公正と文化」 日本社会心理学会 (編) 『社会心理学事典』 478-479, 丸善, 2009.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子 「犯罪・非行」 日本心理学会諸学会連合心理学検定局 (編) 『心理学検定公式問題集』, 実務教育出版, 346-372, 2009.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子 「犯罪・非行」 日本心理学会諸学会連合心理学検定局 (編) 『心理学検定基本キーワード』, 実務教育出版, 265-290, 2009.

大淵憲一 「刑事裁判における謝罪」, 『季刊 社会安全』, 第 76 卷, 1, 2010.

熊谷智博・大淵憲一(監訳) 『紛争と平和構築の社会心理学: 集団間の葛藤とその解決』 (D. Bar-Tal (Ed.), Intergroup conflicts and their resolution: A social psychological perspective. New York: Psychology Press, 2011). 北大路書房, 2012

大淵憲一 「自己統制が人生を決定する?」 『刑政』 第 124 卷, 第 1 号, 64-65, 2013.

大淵憲一 「犯罪研究における自己統制」 『刑政』 第 124 卷, 第 5 号, 66-67, 2013

大淵憲一 「自己統制研究の進展: 自己統制は能力か努力か?」 『刑政』 第 124 卷, 第 9 号, 印刷中.

大淵憲一 「暴力とは何か」 『子どもの虹情報研修センター紀要』 第 11 卷, 印刷中.

行場次朗教授

行場次朗 「形とイメージ」 原島博他 (編) 『知識ベース』 電子情報通信学会 2009

阿部恒之教授

<事典項目>

阿部恒之 「感情の理論」, 平凡社『心理学事典』, 2011.

<パンフレット・ニューズレター等>

阿部恒之・野家啓一 「特別対談—東北地方太平洋沖地震について改めて言葉の力について考えた」, 『考えるということ』, 6, 2-11, 2011.

阿部恒之 「東日本大震災の顔」, 『顔学会ニューズレター』, 46, 2, 2011.

阿部恒之 「青葉山の避難生活」, 『応用心理学のクロスロード』, 4, 20-21, 2011.

阿部恒之 書評「震災・復興の社会学(松井克浩著)」, 新潟日報(12月18日) 2011.

阿部恒之 「化粧文化研究者ネットワーク研究会報告(第22回)」 『顔学会ニューズレター』, 49, 2012.

阿部恒之 「フォーラム顔学2012実施報告(2013年度大会予告)」 『顔学会ニューズレター』, 50, 2012

<新聞・雑誌取材>

阿部恒之 「医療ルネサンス—化粧の力」 読売新聞 (3月20日付), 2009.

阿部恒之 「Trend and Technology」 The Japan Economic Review (6月15日付), 2009.

阿部恒之 「エイジングケアは進化する」 クロワッサン (12月10日付), 2009.

阿部恒之 「まっげエステご用心」 読売新聞 (5月11日付), 2010.

阿部恒之 「技術&トレンド」 日経ビジネス (6月7日付), 2010.

阿部恒之 「女心を呪縛する, マイナス5歳」 POCO21 (6月10日付), 2010.

阿部恒之 「歴史の万華鏡/顔学~メイクアップ(前編)」 ヘアモード (9月号), 2010.

阿部恒之 「歴史の万華鏡/顔学~メイクアップ(後編)」 ヘアモード (10月号), 2010.

阿部恒之 「メイクセラピー(化粧療法)」 共同通信取材による配信で地方紙12紙に掲載(静岡新聞夕刊, 6月30日;伊瀬新聞, 7月5日;日本海新聞, 7月5日;岐阜新聞, 7月6日;東奥新聞, 7月8日;岩手日報, 7月8日;中国新聞, 7月8日;神戸新聞, 7月9日;河北新報, 7月11日;四国新聞, 7月19日;長崎新聞, 8月23日;新潟日報, 9月23日), 2010.

阿部恒之 「震災後の行動」 河北新報 (5月5日付), 2011.

阿部恒之 「化粧が私たちに元気にする」 リビング仙台 (5月14日付), 2011.

阿部恒之 「日本の被災地なぜ治安よい?」 神戸新聞 (6月21日付), 2011.

阿部恒之 「助け合いや支援で犯罪抑制 震災との関連」 産経新聞 (8月9日)

付), 2011.

阿部恒之 「犯罪学会世界大会 国, 東電の過失指摘も」 神戸新聞 (8月10日付), 2011.

阿部恒之 「好感を持たれるには? 心理学的考察」 河北ウイークリーせんだい (9月1日付), 2011.

阿部恒之 「教育ルネッサンス: 学校と震災 40」 読売新聞 (11月25日付), 2011.

Abe, T. “Quand le rouge à lèvres redonne estime et courage (口紅が自信と勇気を取り戻してくれるとき)” Le Monde(11月30日付), 2011.

阿部恒之 「美容の知恵袋(カネボウ共同研究成果)」 産経新聞(1月6日付), 2012.

阿部恒之 「資生堂の復興支援写真展」 河北新報 (1月31日付), 2012.

阿部恒之 「東北大の被災地支援事業(加齢研のサイエンスカフェ)」 河北新報 (7月24日付), 2012.

阿部恒之 「復興の狼煙講演会アナウンス」 読売新聞備後版 (11月29日付), 山陽新聞備後版 (11月30日付), 朝日新聞備後版 (11月30日付), 他に, 中国新聞・太陽新聞。・経済ジャーナル等, 2012.

阿部恒之 「東北大-河北合同調査」 河北新報 (3月10日付), 2013.

阿部恒之 「名取川美化研究」 河北新報みやぎ版 (5月20日付), 2013.

<新聞連載>

阿部恒之 「プリズム」 河北新報 (2009年11月18日から2010年3月30日まで毎週水曜日20回連載)

阿部恒之 「紙面センサー」 河北新報 (2011年10月31日から2012年3月31日まで毎月月末6回連載)

坂井信之准教授

<テレビ・新聞・雑誌等取材>

坂井信之 「大学イメージの香水発表」 神戸新聞 2011年3月7日

坂井信之 「梅酒人気が続く」 東奥日報 2011年3月11日

坂井信之 「においビジネス」 関西テレビ「スーパーニュースアンカー」 2012年2月3日放送

坂井信之 「香りビジネス最前線」 テレビ新広島「知りためプラス」 2012年4月21日放送

坂井信之 「雨のニオイはなんのニオイ？」 CBC ラジオ「気分爽快！多田しげおの朝から PON」 2012 年 7 月 25 日放送

坂井信之 「デブロフの人」 関西テレビ特番 2012 年 8 月 2 日放送

辻本昌弘准教授

<書評>

辻本昌弘 書評「広瀬幸雄（編）「環境行動の社会心理学」（2008 年，北大路書房）」『社会心理学研究』, 25, 230, 2010.

辻本昌弘 書評「石黒広昭・亀田達也（編）「文化と実践：心の本質的社会性を問う」（2010 年，新曜社）」『社会心理学研究』, 26, 93-94, 2010.

1-4 口頭・ポスター発表

仁平義明教授

<学会シンポジウム・ワークショップ・講演>

仁平義明 第 5 回宮城県立がんセンターフォーラム 特別講演 「がん患者と家族の心の回復力（レジリエンシー）研究の動向」（宮城県立がんセンター 2 月 14 日）， 2009.

仁平義明 「日本笑い学会」第 16 回総会・研究発表会記念講演 「“心の回復力”（レジリエンシー）とユーモア」（東北大学 7 月 12 日， 2009.

仁平義明 日本心理学会第 73 回大会学会企画シンポジウム「心理学と倫理（2）倫理規程の活用について考える」話題提供者「倫理規程違反があったとき」（立命館大学 8 月 28 日）， 2009.

仁平義明 日本学術会議心理学教育プログラム委員会 報告者「高等学校教育における心理学：現状と課題（1）」（日本学術会議 9 月 7 日）， 2009.

<国際学会での研究発表>

Nihei, Y. & Sato, T. 「The overly suspicious person is easily deceived: The Moses illusion and paranoia tendencies.」 SARMAC8 (The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009

Ikeda, K. & Nihei, Y. 「The effect of biased retelling and biased rewriting on autobiographical memory.」 SARMAC8 (The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009

Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. L 「linguistic cues for detecting deception: Morphological and content-based analysis.」 SARMAC8 (The 8th Meeting of the

Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009
<国内学会での一般研究発表>
省略

大淵憲一教授

<講演・シンポジウム・ワークショップ：国際学会等>

Ohbuchi, K. Symposium on 「Forgiveness as a response to interpersonal conflict: Limits and possibilities」 (コメンテーター). International Association of Conflict Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 6月16日), 2009.

<講演・シンポジウム・ワークショップ：国内学会等>

大淵憲一「公正の社会的絆：正義・公正の心理学」．東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」開始記念式典・公開講演会（東北大学百周年記念会館会議室，2月7日），2009.

大淵憲一「Social justice, social stratification, and intergroup conflict」（企画）．東北大学文学研究科グローバルCOE「社会階層と不平等教育研究拠点」国際シンポジウム（仙台国際センター，2月24日），2009.

大淵憲一「社会階層と青少年の逸脱」（企画、司会）．東北犯罪科学研究会・東北大学文学研究科グローバルCOE「社会階層と不平等教育研究拠点」共催ワークショップ（東北大学萩ホール会議室6月20日），2009.

大淵憲一「非行臨床の新潮流：マルチシステムティックセラピーの実際」（企画、司会）．東北犯罪科学研究会（東北大学文学研究科心理学研究室8月3日），2009.

大淵憲一「心理学専攻生の進路調査から」．日本心理学会第73回大会日本心理学会企画ラウンドテーブル「日本心理学会は将来どのような学会を目指すのか：将来構想に関するアンケート調査の結果から」（立命館大学敬学館，8月26日），2009.

大淵憲一「防犯心理学の研究動向」（コメンテーター）．日本犯罪心理学会第47回大会ミニシンポジウム（沖縄国際大学、宜野湾市、10月11日），2009.

大淵憲一「家庭と暴力：社会心理学の観点から」．日本家族研究・家族療法学会第27回福島大会基調講演（福島県郡山市、ビッグパレットふくしま，6月4日），2010.

大淵憲一「犯罪心理学における倫理」（コメンテーター）．日本犯罪心理学会第48回大会シンポジウム（目白大学，9月18日），2010.

大淵憲一「コンフリクト・リゾリューション教育：学校での紛争解決教育（CRE）の可能性」（コメンテーター）．日本応用心理学会第78回大会シンポジウム（信州大学，2011年9月10日）．

大淵憲一（2012年5月13日）シンポジウム「法と正義の相克」（コメンテーター）．2012年度日本法社会学会学術大会（京都女子大学）．

大淵憲一（2012年9月8日）シンポジウム「犯罪心理学のこれまでとこれから」（司会）．日本犯罪心理学会第50回大会（大正大学）．

大淵憲一（2013年9月28日）シンポジウム「非行からの立ち直り」（司会）．日本犯罪心理学会第51回大会（大阪教育大学）．

<国際学会での一般研究発表>

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The effect of categorical level on Chinese forgiveness toward Japanese」．The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (Soul, Korea, 3月13日), 2009.

Komatsu, S. & Ohbuchi, K. 「A personality approach to Japanese preference of avoidance in conflict: Neuroticism and its interaction with the situation」．Poster presented at International Association of Conflict Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 7月15日), 2009.

Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」．The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Las Vegas, USA, 1月28-30日), 2010.

Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., Asai, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」．Poster presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's task Performance.」．The 11th Annual Conference of Society for Personality and Social Psychology, 2010.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」．GCOE International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude toward Benevolent Sexism」．The 13th Annual Meeting of the Society for Personality

- and Social Psychology (San Antonio, TX), 2011.
- Kawashima, N. & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being」 Poster presentation at The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (San Antonio, TX), 2011.
- Nakamata, T. & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and negative stimuli」 The 16th General Meeting of the European Association for Social Psychology (Sweden), 2011.
- Togawa, E. & Ohbuchi, K. Approach to juvenile sexual offenders with TAT. Paper presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe), 2011.
- Nakagawa, T. & Ohbuchi, K. 「Effect of collective low self-control and strain in delinquency with peer」 Poster presented at the the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe), 2011.
- Kawabata, T. Muroki, T. Abe, S., Uchiyama, Y., Taya, K., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Type of Perspective Taking on Violent Crime」 Poster presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe) 2011.
- Yamamoto T. & Ohbuchi K. 「Why do women accept benevolent sexism?: An examination of two motivational concerns」 Poster presented at the 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social psychology (San Diego), 2012.
- Asai, N. & Ohbuchi, K. 「Impact of Extended Contact on Chinese Attitude toward Japan before and after the Earthquake 2011」 Poster presented at the 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social psychology (San Diego), 2012.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K., & Tajima, H., 「Effects of empathy and cognitive biases in three types of affection in Japanese students」 Poster presented at the International Congress of Psychology 2012 (Cape Town, South Africa, 2012)
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 2012 「Effect of perceived morality of conflicted outgroup on support for reparation policies」 Poster presented at the 20th Conference of International Society of Research on Aggression (Luxemburg), 2012.
- Kawabata, T., Tajima, H. & Ohbuchi, K. 「The effects of cognitive and emotional processes in decision of the aggressive behavior in Japanese students」 Poster

presented at the 13th European Congress of Psychology (Stockholm), 2013.

<国内学会での一般研究発表>

省略

行場次朗教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

柴田寛・行場次朗 「適切な受け取り動作の選択に關与する脳内基盤」 電子情報
通信学会ヒューマン情報処理研究会 2009年6月 招待講演

行場次朗 『「こころ」のサイエンスー 心理学が解き明かす心のしくみー』 2009
年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2009年10月 企画

行場次朗 『臨床の問題への基礎心理学的アプローチ』 日本基礎心理学会 2009
年度第2回フォーラム 2010年3月 企画・司会

行場次朗 『東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか』 北海道・
東北合同心理学会第11回大会企画シンポジウム 2010年9月 企画・司会

Gyoba, J. 『Investigating the sensory relevance of affective dimensions and the
corresponding brain activities』 12th International Multisensory Research Forum
2011年10月 特別講演

行場次朗 『「美感」研究の新展開』 日本心理学会第75回大会ワークショップ
2011年9月 指定討論

行場次朗 『「こころ」のサイエンスー 心理学が解き明かす心のしくみー』 2011
年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2011年11月 企画・司会

行場次朗・宮崎謙一 『食を豊かにする多感覚知覚』 東北心理学会第66回大会・
新潟心理学会第49回大会企画シンポジウム 2012年7月 企画・司会

行場次朗 『人間の記憶と現代社会：認知心理学による問題提起と解決』 日本認
知心理学会・平成24年度文部科学省研究費助成金(研究成果公開促進費)「研
究成果公開発表(B)」補助事業 2012年10月予定 企画

<国際学会での一般研究発表>

Ishi, H., Sakuta, Y., Akamatsu, S., & Gyoba, J.A 「Face Image Generation System for
Transforming Three Dimensions of Higher-order Impression.」 International
Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2009) (Seoul; January), 2009.

Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「Psychological evaluation and the
applicability of the Impression Transfer Vector method for synthesizing higher-order
facial impressions」 International Workshop on Advanced Image Technology

- (IWAIT 2009), (Seoul; January) 2009.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009) (Salt Lake; March) , 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「Mere exposure effect and unconscious processing of facial impression」 European Society of Philosophy and Psychology (ESPP 2009), (Budapest; August), 2009.
- Suzuki, Y., Takahashi, J., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP Study on the Semantic Processing of Native Language in Children Enrolled in a Foreign Language Immersion Program」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, (Kyoto, October), 2009.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, (Kyoto, October), 2009.
- Sakamoto, S., Furune, F., Teramoto, W., Sakurai, K., Gyoba, J., Suzuki, Y. 「Effect of vestibular information on sound source distance travelled estimation」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, (Sarasota, May), 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion representation by auditory information」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual Perception, (Hamburg, August), 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on

- Memory, (Tsukuba, March), 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., and Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 International Multisensory Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Shibata, M., Yousuke, K., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Sugita, Y., Manaka, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y. 「Sounds can induce illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, 2011.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y. 「The contribution of spectral-cue-based sound localization to illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Sakuta, Y. Ishi, H. Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「The effects of the facial impressions on the mere exposure effect –On the aspect of facial expressions」 European Conference on Facial Expression (Duisburg, July), 2010.

- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y. 「Effects of the alternation of sounds on the perceived direction of visual motion」 European Conference on Visual Perception, (Lausanne, August), 2010.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., and Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 International Congress of Clinical Neurophysiology, (Kobe, November), 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, (Fukuoka, October), 2010.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」 The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of Consciousness, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research Forum, 2011.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「Mere exposure increases false alarms for caricatured faces.」 The Fifth International Conference on Memory (York, ICOM-5 Abstracts, p.127), 2011.
- Gyoba, J., Asai, N., Hidaka, S., Honda, A., Shibata, H., & Teramoto, W. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in appreciating audio-visual contents.」 31th International Congress of Psychology (Capetown, July), 2012.
- Takahashi, J. & Gyoba, J. 「Relationships between self-reported autistic-like traits and

visual short-term memory in typically developed individuals.」 International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (IASSID) 3rd Asia-Pacific Regional Congress, 2013.

<国内発表>

約 110 件 (省略)

阿部恒之教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

阿部恒之 「大学全入時代の心理学教育の現状と課題」, 東北心理学会 63 回大会シンポジウム (弘前大学, 6 月 20 日), 2009.

阿部恒之 「美しいこと・老いること—美容の心理学」, 日本美容福祉学会第 9 回学術集会特別公開講座 (代々木・山野ホール, 10 月 24 日), 2009

阿部恒之 「味と香りと行動の人間科学」, 日本心理学会第 74 回大会シンポジウム (大阪大学, 9 月 22 日), 2010 (指定討論).

阿部恒之 「東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか」, 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会シンポジウム (北翔大学, 8 月 21 日), 2011.

戸島貴代志・佐倉由泰・阿部恒之 「機縁としての顔—復興の狼煙と哲学・文学・心理学」, 日本顔学会第 18 回大会シンポジウム (東北大学, 11 月 10 日), 2013.

<自主企画ワークショップ>

(連名発表) 「嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」, 日本心理学会第 73 回大会 (立命館大学, 8 月 27 日), 2009.

(話題提供) 「日本心理学会・味嗅覚と行動に関する研究会—味わうこと, 香ること, 食べること」, 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学, 9 月 21 日), 2010.

(話題提供) 「東日本大震災後の犯罪: 被災地における犯罪の実態と不安」, 日本心理学会第 77 回大会・公募シンポジウム (北海道医療大学, 9 月 20 日), 2013.

<国際学会での一般研究発表>

Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Is humor a better excuse than a lie? 」, The eighth biennial meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, (京都, 7 月 28 日), 2009.

Kawashima, M., Nagasaki, F., Nomura, M., Hikima, R., & Abe, T. 「The modern

- meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」 , International Society for Research on Emotion 2009 Conference, (ルーベン, 8月7日) , 2009.
- KIKUCHI, F., SATO, T., & Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor appreciation as a key of tolerance for mistakes」 , International Society for Research on Emotion 2009 Conference, (ルーベン, 8月8日) , 2009.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Psychological influence over natural disaster preparation: a cross-country comparison between Thai and Japanese citizen」 , The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference (TJIA 2010) (名古屋大学, 11月19日) , 2010.
- Kawashima, M., Shitata, M., Hikima, R., & Abe, T. 「Evaluation of facial attractiveness with emotional change: Does a woman become more beautiful when she experiences tokimeki?」, The 10th Scientific Conference of Asian Societies of Cosmetic Scientists, (ソウル, 4月9日) , 2011.
- Kikuchi, F., Akita, Y., & Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」 , The 9th Tsukuba International Conference on Memory, (学習院大学・3月7日) , 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「The role of emotions in disaster preparation: A cross-country comparison between Japan and Thailand」 , International Society for Research on Emotion 2011 Conference, (京都ガーデンパレス・7月27日), 2011.
- Abe, T. 「Crime and mutual aid in disaster areas」 , The 16th World Congress of the International Society for Criminology (神戸・国際会議場, 8月9日) , 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「The difference of disaster preparation styles between central and southern Thailand's citizen」 , The 4th Thailand-Japan International Academic Conference, (東京大学・11月26日) , 2011.
- Abe, T. 「Introduction of Psychological Laboratory」 , The First Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia (モスクワ大学・12月8日) , 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., Lee, C., & Abe, T. 「Citizen's viewpoints toward natural disaster's threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand」 , Ninth International Conference on Environmental, Cultural, Economic and Social Sustainability, (ANA クラウンプラザ広島・1月23-25日) , 2013.
- Nakamata, T., & Abe, T. 「Eye movement response to pleasant/unpleasant facial expression」 , The Fourteenth Annual Meeting of the Society for Personality and

Social Psychology (ニューオーリンズ・1月17-19日) 2013.

Nakamata, T., Hirano, D., & Abe, T. 「The factors affecting littering: Signboards, prior Litters, environment, and monitoring camera」, The 13th European Congress of Psychology (ストックホルム・7月9日-12日), 2013.

Wiwattanapantuwong, J., Honda, A., & Abe, T. 「Moral dilemmas in Japan after the Fukushima nuclear disaster: Effects of residential area and disaster experience」, International Society for Research on Emotion 2013 Conference (米国バークレー・8月3日～5日), 2013.

<国内学会での一般研究発表>

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第17回大会(徳島大学, 5月31日), 2009.

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「他者との関係維持方略としてのウソ」, 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.

菊地史倫・庄司耀・阿部恒之 「嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第7回大会(立教大学, 7月19日), 2009.

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効果」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月26日), 2009.

佐藤智穂・阿部恒之 「手・爪の美しさについて—手と爪の形状の相互作用」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.

佐藤智穂・阿部恒之 「手の美しさと爪の形状の関連」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月28日), 2009.

長崎芙美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月27日), 2009.

加藤ちあき・阿部恒之 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月21日), 2009.

設楽茉莉絵・阿部恒之 「性別判断に及ぼす顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響」 日本心理学会第74回大会(大阪大学, 9月22日), 2010.

設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめきは表情にあらわれるか」 日本心理学会第74回大会(大阪大学, 9月22日), 2010.

- 河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「ときめいているときの表情—他者による弁別と形態特徴」 第15回日本顔学会大会（東京医科歯科大学，10月24日），2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめいている顔の魅力と印象」 東北心理学会第64回大会（宮城学院女子大学，9月11日），2010.
- 加藤ちあき・阿部恒之 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」 東北心理学会第64回大会（宮城学院女子大学，9月11日），2010.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識の国際比較研究—タイ人，日本人，タイ人日本留学生を対象に」 東北心理学会第64回大会（宮城学院女子大学，9月11日），2010.
- 河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「感情変化に伴う表情の魅力の変化：ときめく女性はキレイ？」 SCCJ 研究討論会・ASCS 韓国大会国内報告会（大阪国際交流センター，6月25日），2011.
- 李佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会（北翔大学・8月21日），2011.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響—タイにおける面接調査」 北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会（北翔大学・8月21日），2011.
- 李佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較—半構造化面接を中心に」 日本感情心理学会第19回大会（京都光華女子大学・9月3日），2011.
- 織田弥生・高野ルリ子・阿部恒之 「短期的・長期的心理状態を測定可能な情動・覚醒質問紙の作成（3）—妥当性の検討(2)」 日本心理学会第75回大会（日本大学・9月15日），2011
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響—日本とタイの国際比較」 日本感情心理学会第19回大会（京都光華女子大学・9月3日），2011.
- 張燕・阿部恒之 「美容整形意識の日韓比較—ソウルにおける面接調査」 日本感情心理学会第20回大会（神戸大学・5月26日），2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災の復興活動に対する感情評価」 日本感情心理学会第20回大会（神戸大学・5月27日），2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・張燕・本多明生・阿部恒之 「韓国における東日本大震災の評価」 東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会（新

- 潟大学・7月14日), 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「快・不快表情に対する反応—視線の動きに注目して」 日本感情心理学会第20回大会(神戸大学・5月27日), 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「単純作業における反応合理性」 東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会(新潟大学・7月15日), 2012.
- 張燕・阿部恒之 「東アジアにおける美容整形の意識の比較」 東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会(新潟大学・7月15日), 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災における逸脱行動とその許容性に関する実態調査」 日本心理学会第76回大会(専修大学・9月12日), 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong, Chia-jung Lee, & Tsuneyuki Abe“Citizen’s viewpoints toward natural disaster’s threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand” Ninth International Conference on Environmental, Cultural, Economic and Social Sustainability (広島国際センター・1月23-25日予定), 2013.
- 杉浦元亮・野内類・佐藤翔輔・邑本俊亮・今村文彦・阿部恒之・本多明生・岩崎雅宏 「生きる力とは何か—3.11 震災経験の認知科学的分析」 第31回日本自然災害学会学術講演会(弘前大学・9月19日), 2012.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモアの聞き手の不利益とユーモア認知が弁解者の性格特性の推測に与える影響」 日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 小形佳祐・阿部恒之 「覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から」 日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差」 日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情」 日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「原子力発電に対する態度研究の現在」 日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 佐藤翔輔・邑本俊亮・野内類・今村文彦・杉浦元亮・阿部恒之・本多明生・岩崎雅宏第「災害時の「生きる力」に関する探索的研究—東日本大震災の被災

経験者の証言から」, 第 32 回日本自然災害学会学術講演会 (北見工業大学・9 月 24-25 日), 2013.

中俣友子・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制に対する看板と環境の効果—名取川における現場実験」 日本社会心理学会第 54 回大会 (沖縄国際大学・11 月 2-3 日), 2013.

坂井信之准教授

<学会シンポジウム・ワークショップ・講演>

坂井信之 「食品・日用品の認知と評価～味覚と嗅覚の複合感覚を中心に」 日本官能評価学会第 16 回大会講演 (東京農業大学, 11 月 26 日), 2011.

坂井信之 「風味知覚形成のメカニズム」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会 大会企画シンポジウム「食を豊かにする多感覚知覚」 (新潟大学, 7 月 15 日), 2012.

坂井信之 「色彩と心理」 第 20 回日本歯科色彩学会総会・学術大会講習会 (日本大学松戸歯学部, 7 月 28 日), 2012.

<国際学会での一般研究発表>

Sakai, N. & Fujiwara, S. 「The effects of packages of skin care products on perception of skin conditioning after using the products」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8, Tronto, Canada, 2011.

Onoe, T., Ohyama, N. & Sakai, N. 「Effects of combination between fragrances and colors on performance of the hand soap」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8, Tronto, Canada, 2011.

Matsui, C. & Sakai, N. 「Does eating with someone make foods better taste?Effect of the social context on taste perception」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8, Tronto, Canada, 2011.

Yoshimatsu, H., Murata, M., Yamada, N., Ikenishi, T., Kondo, N., Niikura, Y., Sako, N. & Sakai, N. 「The effect of mint flavor on taste perception」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8, Tronto, Canada, 2011.

Saka, N., Fujimoto, M. & Murata, M. 「Interactions between flavor and taste: Using dashi soup as a taste stimulus」 12th International Multisensory Research Forum, 2011.

Sakai, N. 「Tasting with eyes」 12th International Multisensory Research Forum, 2011.

Sakai, N., Yoshimatsu, H., Ikenishi, T., Niikura, Y., Hagiwara, N., & Sako, N. 「Processing of mint flavor activates different brain areas from those of mint

aroma.] XVI International Symposium on Olfaction and Taste, Stockholm, Sweden, June 23-27 2012.

Imada, S., Sakai, N., Takagaki, A., Koyama, H., Yokota, K., & Nakanishi, D. 「Effects of package of the commercial food on evaluation of the palatability: Good packages are not always “good” for the product」 5th European Conference on Sensory and Consumer Research, Bern, Switzerland, 2012.

Sakai, N., Kurosaki, N., & Fuchimoto, J. 「The impact of communication on palatability evaluations of food and beverage.」 Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.

Fuchimoto, J., Ohnuma, T., Araki, S., Shigyo, T., & Sakai, N. 「The effect of ester flavor on the perception of beer.」 Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.

Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Is it true that unfamiliar brands are the meaningless symbols? : Intra-brand assimilation occurs to palatability evaluation of carbonated beverages.」 Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.

<国内学会での一般研究発表>

裕哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミントによる味覚抑制はカルボン酸に起因する」 日本味と匂学会第46回大会, 2012
坂井信之・大沼卓也・今田純雄 「選択することがカレーのおいしさ評定に及ぼす効果」 日本味と匂学会第46回大会, 2012.

神田光栄・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評定における共食の影響」 日本味と匂学会第46回大会, 2012.

坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形成に及ぼす影響」 日本味と匂学会第46回大会, 2012.

大沼卓也・坂井信之 「ロコミ情報がカレーのおいしさ評定に及ぼす影響」 東北心理学会第67回大会, 2013.

大沼卓也・荒木茂樹・坂井信之 「ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討」 日本感情心理学会第21回大会, 2013.

坂井信之・小野間統子・松本彩和 「飲料摂取が認知活動に及ぼす影響 ビール、ノンアルコールビール、エナジードリンクの効果」 日本健康心理学会第26回大会, 2013.

神田光栄・坂井信之 「香りによる人物の印象が瞳孔径の変化に及ぼす影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.

大沼卓也・瀧本潤・坂井信之 「視覚的意思決定の初期段階における視線の偏り - 注視パターン別の初回滞留時間の検討 - 」 日本心理学会第77回大会,

2013.

長谷川智子・坂井信之 「甘味・旨味の好悪と日常の食生活について（1）甘味・旨味の好悪に関する基礎的研究」 日本心理学会第77回大会, 2013.

渕本潤・大沼卓也・坂井信之 「エステル香の添加が飲料の評価に及ぼす影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.

神田光荣・坂井信之 「香りが人物の印象に与える影響- NIRS による検討-」 日本味と匂学会第47回大会, 2013.

小野間統子・渕本潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による酩酊感の心理学的検討」 日本味と匂学会第47回大会, 2013.

大沼卓也・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評価に及ぼす影響」 日本味と匂学会第47回大会, 2013.

松本彩和・渕本潤・坂井信之 「エナジードリンクが認知活動に及ぼす心理的影響の検討」 日本味と匂学会第47回大会, 2013.

辻本昌弘准教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

辻本昌弘 「地域研究の視点から」 『新たな社会心理学の展開と現状からの脱却』 日本社会心理学会第50回大会記念シンポジウム（大阪大学, 10月11日）, 2009.

辻本昌弘 「南米日系人の調査から」 『フィールドワーク：東北フィールド学派の系譜をめぐって』 日本質的心理学会第7回大会 大会企画シンポジウム（茨城大学, 11月27日）, 2010.

<自主企画ワークショップ>

辻本昌弘 「南米日系人の講集団にみる危機対処」 『「安全・安心」の社会哲学』 日本社会心理学会第50回大会 日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会ワークショップ（大阪大学, 10月12日）, 2009.

<国際学会での一般研究発表>

Tsujimoto, M. 「An indigenous form of social exchange in Okinawa Island」 International Conference of Revisited Asian Society, (Yogyakarta, July 23), 2011.

<国内学会での一般研究発表>

小池心平・中丸麻由子・辻本昌弘 「経済的講集団における面識関係の活用と社会的ジレンマ」 第47回数理社会学会大会（京都産業大学, 3月7日）, 2009.

辻本昌弘・Alejandro Kuda 「アルゼンチン日系人の生活史」 東北心理学会第64

- 会大会（宮城学院女子大学，9月12日），2010.
- 辻本昌弘「生活史研究の方法論：移民の口述を例に」 東北心理学会第67回大会
（東北工業大学，5月11日），2013.

荒木剛助教（2009年度以降の業績）

<招待講演・学会主催シンポジウム>

- 荒木剛.. 「ペシミズム（悲観主義）の positive な側面」 日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会企画シンポジウム『パーソナリティを多面的に捉える』（東北大学，7月25日），2009.

<国内学会での一般研究発表>

- 荒木剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価と対処方略の関係 ―縦断的検討―」 東北心理学会第63回大会，2009.
- 荒木剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係」 日本行動療法学会第35回大会，2009.
- 荒木剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係(2)」 日本心理学会第74回大会，2010.

柴田寛助手（2011年度の業績）

<国際学会での一般研究発表>

- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.

<国内学会での一般研究発表>

- 神田敬幸・本多明生・柴田寛・浅井暢子・寺本渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツにおける臨場感・迫真性の規定因」 第16回日本バーチャルリアリティ学会大会，2011.
- 神田敬幸・本多明生・柴田寛・浅井暢子・寺本渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツの臨場感と迫真性に関する実験的研究―

シンバル演奏場面における視野制限と音圧レベルの効果」 電子情報通信学会(ヒューマン情報処理研究会), 2011.

柴田寛・乾敏郎・小川健二 「社会的な文脈で行われる手の動作の理解における下前頭回の役割」 第34回日本神経科学大会, 2011.

鈴木結花助教 (2012年度の業績)

<国際学会での一般研究発表>

Suzuki, Y., Okuyama, T., & Tanaka, M., 「Signal detection study of the effect of sound on the discrimination of hardness」 European Conference on Visual Perception, (Alghero, Italy; September 6), 2012.

上原俊介助教 (2013年度の業績)

<国内学会での一般研究発表>

上原俊介・中川知宏・田村 達・森 丈弓・小形佳祐 「何が義憤の怒りを生起させるか? 公正と配慮の道德観」 東北心理学会第67回大会, 2013.

上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齋藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.

2 教員の受賞歴 (2009~2013年度)

仁平義明教授

池田和浩・仁平義明 「日本心理学会優秀論文賞」 2009年

行場次朗教授

寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「日本バーチャルリアリティ学会2011年度論文賞」, 2011.

行場次朗 「第6回今井賞」, 2011.

高橋純一・行場次朗・山脇望美 「日本認知心理学会第10回大会優秀発表賞(総合性評価部門)」, 2012

阿部恒之教授

菊地史倫・庄司耀・阿部恒之 「日本認知心理学会第7回大会優秀発表賞」, 2010

遠藤光男・桐田隆博・阿部恒之 「2010年度基礎心理学研究優秀論文賞」, 2011

阿部恒之「東北大学全学教育貢献賞」, 2012

Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之「日本感情心理学会第21回大会
独創研究賞, 2013

中俣友子・平野大二郎・阿部恒之「日本感情心理学会第21回大会グッド・プレゼン
テーション賞, 2013

IV 教員による競争的資金獲得(2009~2013年度)

(1) 科学研究費補助金

大淵憲一教授

科学研究費補助金(萌芽研究、研究代表者)「日本思想からみた正義・公正観念：
社会心理学的検討」2007年度~2009年度

科学研究費補助金(基盤研究(B)、研究分担者)「中高年者の高次脳機能と筋運動
機能および生活習慣との関連に関する神経心理学的研究」2007年度~2011年
度

科学研究費補助金(基盤研究(B)、研究分担者)「脳画像の適正な社会的使用のた
めの基礎研究」2008年度~2012年度

科学研究費補助金(基盤研究(C)、研究分担者)「教育価値観と葛藤解決の包括的
研究：国際比較と世代間比較」2008年度~2011年度

グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」(事業推進担当
者)2008年度~2012年度

科学研究費補助金(基盤研究(B)、研究代表者)「現代日本人の価値観：古層と伝
統的思想(仏教、儒教、神道・国学)の影響」2010年度~2013年度

行場次朗教授

科学研究費補助金「基盤研究(C)(一般)」「意味微分法で抽出される感性次
元の脳内基盤の解明」(2009~2011年度) 代表

科学研究費補助金「基盤研究(B)(一般)」「顔の視覚像が感性印象に寄与する
因子の実験的・心理学的分析」(2009~2011年度) 分担

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「児童青年期精神障害および高
齢者関連疾患における先進的個別化予防ケアシステムの構築に関する研究」
(平成20~平成24年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究(B)(一般)」「心のデザイン」モデルによる視

「覚芸術の特性と脳内基盤の解明」 (2006～2008 年度) 代表
科学研究費補助金「特別推進研究」 「マルチモーダル感覚情報の時空間統合」
(2007～2011 年度) 分担
科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「実験心理学における古典的実験機
器のアーカイブ化とその活用」 分担
文部科学省学術フロンティア推進事業「五感を介する刺激測定に基づく健康向上
のための人間環境システムの構築」 (平成 16～20 年度) 分担
科学研究費補助金「基盤研究 (S) (一般)」 「OS 型言語の文処理メカニズムに
関するフィールド言語認知脳科学的研究」 (平成 22～26 年度) 分担
科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「実験心理学における古典的実験機
器のアーカイブ化とその活用」 (平成 22～24 年度) 分担
科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「3次元顔モーフィングモデルによ
る高次視覚印象の創出と感性インタフェースへの応用」 (平成 24～26 年度)
分担
科学研究費補助金「挑戦的萌芽研究」 「逆理的効果に基づく新しい感性概念「迫
真性」の追求とその応用」 (平成 24～25 年度) 代表

阿部恒之教授

「ハイパー・ダイアログの包括的理解」 (研究分担者), 基盤研究 (C)2150002 ,
(研究代表者: 戸島貴代志), 2009 年度～2011 年度
「対話の時間性—「機」の諸相について」 (研究分担者), 基盤研究 (C) 24520004 ,
(研究代表者: 戸島貴代志), 2012 年度～2014 年度
「大規模災害後の犯罪対策に関する実証的研究—犯罪発生の予防と犯罪不安の低
減のために」 (研究分担者), 基盤研究 (B) 25285025, (研究代表者: 岡本
英生), 2013 年度～2015 年度

坂井信之准教授

坂井信之, 科学研究費補助金 (基盤研究 (C) ・研究代表者) 「共食の重要性に
関する心理学的側面」 (2011 年度～2013 年度)

辻本昌弘准教授

科学研究費補助金若手研究 (B) 「アルゼンチン日系人の文化変容」 (2009 年度
～2011 年度) 代表

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「地域社会の社会心理学」 (2012 年度～) 代表

荒木剛助教 (2008 年度～2010 年度)

科学研究費補助金若手研究 (スタートアップ) 「侵入思考に対する自我異和的
評価と思考抑制の関係」 (2008～2009 年度) 代表

鈴木結花助教 (2008 年度以降)

科学研究費補助金「特別研究員奨励費」 「表面の質感知覚および感性評価におけ
る触聴覚情報処理メカニズムの解明」 (2011～2012 年度 8 月) 代表

科学研究費補助金「研究活動スタート支援」 「物体の情緒的質感知覚における触
聴覚情報処理の解明」 (2012～2013 年度) 代表

(2) その他

仁平義明教授

総長裁量経費「地域社会を災害から守るための防災科学研究拠点の形成と地域連
携事業の構築」 (分担研究者: 2007-2009 年度)

行場次朗教授

(株)デンソー 学術指導「先端材料等に関する学術指導 (文)」 (2011 年度～)

BASF コーティングジャパン株式会社・JFE 鋼板株式会社 学術指導「仮設住
宅の壁色における心理効果の検証」 (2012 年 9 月～2013 年 11 月)

阿部恒之教授

(株)資生堂 共同研究「現代女性における理想的な手及び爪の形態に関する心理学
的研究」 (2008 年 10 月～2009 年 9 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究」 (2008 年 10 月～2009 年 3 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究(2)」 (2009 年 4 月～2009 年 9 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究(3)」 (2009 年 10 月～2010 年 3
月)

(株)任天堂 共同研究「エンタテインメントとスマートエイジングの研究」 (研究
代表者の加齢医学研究所より研究分担, 2009 年 10 月～2010 年 9 月)

東北大学防災科学研究拠点 (総長裁量経費, 2010 年 4 月～2012 年 3 月)

東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究 (2012 年度)

国土交通省東北地方整備局学術指導（2010年度～）

財団法人社会安全研究財団助成研究「大災害後の防犯対策に関する研究—東日本大震災後の調査に基づいて」（2012年4月～2013年9月）

東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究・所外/連携（2013年～）

坂井信之准教授

財団法人うま味研究会研究助成金「うま味と香りの交互作用における学習や食習慣の影響」（研究代表者：2010～2011年度）

財団法人アサヒビール学術振興財団助成金「共食することによって生じる「おいしさの亢進」に関する行動科学的研究」（研究代表者：2010～2011年度）

(株)デンソー 学術指導「先端材料等に関する学術指導（文）」（2011年度～）
日本たばこ産業株式会社 学術指導「消費者の嗜好に影響を及ぼす味、香り、その他因子の関係解明」（2012年度～）

小林製薬株式会社 共同研究「香りによる住宅内の印象変化に関する研究」（2012年度～）

サントリー株式会社 共同研究「さっぱり感の嗜好性検討」（2012年度～）

クラシエホームプラダクツ株式会社 学術指導「洗顔による気分改善効果に関する心理学的知見」（2012年度～）

ライオン株式会社 学術指導「香りや香味がヒトに与える心理・生理的な効果の評価法開発」（2012年度～）

鈴木結花助教

BASFコーティングジャパン株式会社・JFE鋼板株式会社 学術指導「仮設住宅の壁色における心理効果の検証」（2012年9月～2013年11月）

V 教員による社会貢献（2009～2013年度）

<委員等>

仁平義明教授

日本学術会議連携会員（2006年3月～）

日本学術会議心理学教育分科会委員（2006年～）

日本学術会議脳と意識分科会委員（2006年～）

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2008・2009）

日本学術振興会審査・評価第一部会専門委員（2008・2009）

日本学術振興会特別研究員等審査会委員（2009）
八戸工業高等専門学校「文部科学省学生支援G P」外部アドバイザー（2008）
宮城県立こども病院倫理委員会外部委員（2004～）
宮城県立こども病院治験審査委員会外部委員（2004～）
東北放送番組審議会委員（2009～）
NPO 法人ワンダーポケット（宮城県立こども病院ボランティア支援団体）理事
（2003～2009）

大淵憲一教授

日本学術会議連携委員（2005 年度～）
日本社会安全研究財団評議員（2006 年度～）
放送大学客員教員（宮城学習センター所属）（1998 年度～2010 年度）
文部科学省科学技術・学術審議会専門委員（2007 年度～2010 年度）
文部科学省科学研究費補助金における評価に関する委員会評価者（人文・社会系）
（2007 年度～2010 年度）
独立行政法人社会技術研究開発センター評価委員会専門委員（2009 年度～2012 年
度）
仙台地方裁判所委員会委員（2009 年度～）
宮城県安全・安心まちづくり委員会委員長（2012 年度～）

行場次朗教授

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2005～現在）
文部科学省科学技術動向研究センター専門調査員（2001 年度～現在）
日本学術会議連携会員（2012～現在）
日本認定心理士会北海道・東北地区支部長（2012 年度～現在）

阿部恒之教授

国土交通省東北地方整備局・名取川美化アドバイザー（2010 年 10 月～，但し 2011
年 4～9 月は震災後の混乱のため契約中断）

荒木剛助教（2008 年度～2010 年度）

仙台市教育局「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」構成委員（2010 年
度～）

仙台市教育局「たくましく生きる力育成プログラム」開発検討会議アドバイザー
(2010年度～)

鈴木結花助教

日本認定心理士会北海道・東北地区支部事務局担当 (2012年4月～2013年3月まで)

上原俊介助教

日本認定心理士会北海道・東北地区支部事務局担当 (2013年4月～)

<公開講座・公開シンポジウム・公開講演等>

仁平義明教授

仁平義明 公開シンポジウム in Fukushima 2009 「発達障害のある子どもの心の回復力（レジリエンシー）を考える 基調講演「心の回復力（レジリエンシー）研究と実践の動向」（コラッセふくしま2月7日），2009.

仁平義明 「南光台学院」記念講話 「人間はだまされるようにプログラムされている」（南光台市民センター 2月20日），2009.

仁平義明 福島大学学生支援グループ・学生生活委員会講演会 「大学生の心の回復力を考える—強い心からしなやかな心へ」（福島大学 2月27日），2009.

仁平義明 仙台ロータリークラブ講演「人間力育成の世界的転換—ハーディネス（心の強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ」（ホテルメトロポリタン仙台 4月14日），2009.

仁平義明 東北大学災害防止対策全学講習会 講演「安全の心理学」（東北大学 金属材料研究所講堂 6月12日），2009.

仁平義明 平成21年度（第29回）「仙台の教育を語る会」シンポジウム 基調講演 「心のつよさ（ハーディネス）から心の回復力（レジリエンシー）へ—子どもの心に今求められているものは何か—」（仙台市ホテル白萩7月9日），2009.

仁平義明 第49回仙台市私立幼稚園PTA連合研修大会 講演「子どもの心の回復力を育てる」（仙台市イズミティ21 9月3日）2009.

仁平義明 須賀川養護学校郡山分校教育講演会 「人間関係で傷ついた子どもの心の回復力を育てる」（須賀川養護学校郡山分校 9月25日），2009.

大淵憲一教授

- 大淵憲一「家族と暴力」．ひょうご講座（兵庫県民会館，6月5日），2009.
- 大淵憲一「実証研究に基づく犯罪原因論：統制理論と緊張理論の展開」．法務省矯正研修所講義（法務省矯正研修所，9月25日），2009.
- 大淵憲一「裁判と心理学」．放送大学宮城学習センター入学者の集い・講話（東北大学金属材料研究所9月27日），2009.
- 大淵憲一「ストレスと非行：ストレイン理論の展開」．仙台家庭裁判所研修（仙台家庭裁判所，10月1日），2009.
- 大淵憲一「犯罪理論の新展開：統制理論と緊張理論」．（法務省矯正研修所，3月1日），2010
- 大淵憲一「取調の心理学」．東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校，8月3日），2010.
- 大淵憲一「ストレスと犯罪」（法務省矯正研修所，9月17日），2010.
- 大淵憲一「ストレスと犯罪」（法務省矯正研修所，3月9日），2011.
- 大淵憲一「自己統制研究の最前線」（法務省矯正研修所，9月16日），2011
- 大淵憲一「取調の心理学」東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校，10月19日），2011.
- 大淵憲一「取調の心理学」（宮城県警察学校，12月7日），2011.
- 大淵憲一「暴力とは何か」（子どもの虹情報研修センター，5月29日），2012
- 大淵憲一「防犯の心理学」（福島市北信地区防犯協会，6月6日），2012
- 大淵憲一「取調の心理学」東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校，10月15日），2012.
- 大淵憲一「取調の心理学」（宮城県警察学校，11月6日），2012.

行場次朗教授

- 行場次朗 特別講演会 Prof. Wolfgang Skrandies 『Human cognitive neurophysiology —Examples from perceptual learning and language processing—』 東北大学文学研究科 2009年10月6日 □企画・司会
- 行場次朗 日本イメージ心理学会第13回大会 特別講演 乾敏郎教授 『イメージ生成と変換の脳内機構』 2012年9月29日 企画・司会
- 行場次朗 日本イメージ心理学会第13回大会 特別講演 宮内哲・情報通信研究機構未来ICT研究所主幹研究員 『眼は夢の像を追うーレム睡眠中の急速眼球

運動に伴う脳活動ー』2012年9月30日 企画・司会
行場次朗 日本認知科学会第29回大会 特別講演 邑本俊亮教授 『実践的防災
学から認知科学に期待するもの』2012年12月14日予定 企画・司会
行場次朗 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 電気通信研究所 2001
年から毎年12月 企画

阿部恒之教授

阿部恒之 講義「化粧品心理効果」，日本化粧品技術者会主催・化粧品技術基礎講習会（有楽町・朝日ホール等），（2000-）2012
阿部恒之 講義「化粧品と心理」，西日本化粧品工業会等主催・化粧品技術基礎講習会（大阪・大阪商工会議所国際会議ホール等），（2003-）2012
阿部恒之 講演 「美しく生きるー化粧品と心」，資生堂学園創立50周年記念特別セミナー（東京・資生堂学園，3月14日），2009
阿部恒之 講演「心の謎を見つけ，課題を立てるー方法論再考」，みやぎ県民大学・教免許状更新講座（東北大学南キャンパス，9月14日），2009
阿部恒之 講義「心理学入門」，山形県立山形東高校特別授業（10月6日），2009
阿部恒之 ラジオ出演 「東北大学防災 UPDATES!」，FM 仙台（12月6日，12月20日），2009
阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」，FM 仙台（12月20日），2009；（1月16日），2010
阿部恒之 講演 「美しい年齢の重ね方・一瞬も一生も美しく／加点法の美意識」，第2回元気！健康！フェア in とうほく（仙台国際センター，2月28日），2010
阿部恒之 講演「メンタルケア論 Iー化粧品という感情調節装置」，第120回メンタルケア・スペシャリスト養成講座・基礎課程（フォレスト仙台，4月11日），2010
阿部恒之 講演 「心理学で解き明かす化粧の秘密」，東北文化研究会（片平 さくらホール，7月10日），2010
阿部恒之 講義「心理学入門」，平成22年度高大連携に係わる地域公開講座（宮城県立白石高校会場，7月20日），2010
阿部恒之 パネリスト「感情を表す，感情を読み取るー人と人とを結ぶ心理学」，同志社大学心理学部開設記念シンポジウム2010（同志社大学，9月23日），2010
阿部恒之 講演「被災者のマナーー被災後の生活と治安」，東北大学による東日

- 本大震災1ヶ月後緊急報告会（仙台・トラストシティ カンファレンス，4月13日），2011（東北大学防災科学研究拠点）
- 阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(2)—被災時の混乱と助け合い」，東北大学による東日本大震災3ヶ月後緊急報告会（仙台・国際センター，6月10日），2011（東北大学防災科学研究拠点）
- 阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(3)—被災後の生活と治安」，東北大学による東日本大震災6ヶ月後報告会・復興に向けての大学の役割（仙台・トラストシティ カンファレンス，9月13日），2011（東北大学防災科学研究拠点）
- 阿部恒之 講演「震災と心理学—被災者のマナー」，広島修道大学人文学部主催学術講演会（広島修道大学・6月24日），2011
- 阿部恒之 講演「メンタルケア論I—化粧という感情調節装置」，第130回メンタルケア・スペシャリスト養成講座（仙台会場）・基礎課程（フォレスト仙台・10月30日），2011
- 阿部恒之 講演「男と女—見た目の違いと心の違い」，斉理蔵の講座，（丸森町・斉理蔵・6月4日），2011
- 阿部恒之 講演「加齢と美しさ」，加齢研市民公開講座・スマートエイジング（加齢研・10月15日），2011
- 阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」，FM 仙台（1月1日，1月15日），2012.
- 阿部恒之・岡元美也子・松田佳重子 鼎談 「東北のミューズ（女神）たち」，あしたが、もっと、カラフルでありますように～資生堂ヘア・メーキャップアーティストによる、色とりどりのラブレター展（メディアテーク仙台・1月14日），2012.
- 阿部恒之 特別講演「東アジアの化粧とマナー」，化粧文化研究者ネットワーク第22回研究会（資生堂五反田ビル・6月30日），2012.
- 阿部恒之・西島悦・我妻恵子 講演「美しさを願うことがもたらすもの」，加齢研主催・東北大学サイエンスカフェスペシャル（石巻中央公民館・7月21日），2012.
- 阿部恒之・佐々木昌彦 対談「復興の狼煙」，復興の狼煙講演会（福山中央図書館・12月15日），2012.
- 阿部恒之 講演「美しさを願うことがもたらすもの」，加齢研主催・東北大学サイエンスカフェスペシャル（亘理町中央公民館・10月5日），2013.

阿部恒之 講演「東日本大震災における被災者の態度」, モスクワ大学心理学部
主催ラウンドテーブル (モスクワ大学・10月10日)

坂井信之准教授

坂井信之 講演「食育とは何？」八尾市保育士・調理師食育研修会、2011
坂井信之 講演「おいしく食べるための心理」大阪市保育所職員研修、2011
坂井信之 講演「おいしく食べるための心理学」東大阪市保育所職員研修会、2011
坂井信之 講演 大阪府幼稚園新規採用教員研修会講師、2012

辻本昌弘准教授

辻本昌弘 「人間の心理と行動」有備館講座 (宮城県大崎市・スコーレハウス, 5
月15日), 2010
辻本昌弘 「困難をどう生き抜くか」山形大学人文学部特別招待講義 (山形大学,
6月3日), 2010
辻本昌弘 「人間の心理と行動」福島県立安積黎明高等学校「大学・学問体験講
座」 (7月7日), 2010
辻本昌弘 「人間の心理と行動」みやぎ県民大学 (東北大学, 9月17日), 2011
辻本昌弘 「地域社会の死生観」 SA カレッジ (東北大学, 5月25日), 2012
辻本昌弘 「死者の記憶と世代の継承」 齋理蔵講座 (宮城県丸森町, 7月7日),
2012.

荒木剛助教 (2008年度以降)

荒木剛「心の仕組みを探る：心理学入門」秋田県立本荘高等学校模擬講義 (秋田
県立本荘高等学校, 7月8日), 2009.

上原俊介助教 (2013年度)

上原俊介「何が義憤の怒りを喚起させるか？ふたつの可能性」第17回西日本社会
的感情研究会 (大阪大学中之島センター, 7月27日), 2013.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2009～2013年度)

仁平義明教授

日本心理学会議員 (2001～現在)
日本音楽知覚認知学会理事・編集委員 (1999～2009)

日本音楽知覚認知学会監事（2009～現在）
日本心理学会常務理事（2009～現在）
日本心理学会優秀論文賞選考委員（2009～現在）
日本心理学会倫理委員会委員長（2009～現在）
日本心理学会公益社団法人化特別委員会委員長（2009～現在）
日本心理学諸学会連合教育委員会委員（2009～現在）
日本認知心理学会安全研究部会長（2003～現在）
日本認知心理学会理事（2009～現在）
日本音楽知覚認知学会会長（2007～2009）
日本認定心理士会北海道・東北支部長（2007～2009）
日本自閉症スペクトラム学会評議員（2008～現在）
Tohoku Psychologica Folia Chief editor (2005～現在)
SARMACⅧ（The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition）準備委員（2009）

大淵憲一教授

”Psychology, Crime, and Law”誌編集委員（2001年度～現在）
”Tohoku Psychologica Folia”誌副編集長（2001年度～現在）
日本グループ・ダイナミックス学会理事（2009年度～2011年度）
日本犯罪心理学会編集委員（2001年度～現在）
日本犯罪心理学会常任理事（2006年度～現在）
日本心理学会代議員（2009年度～2011年度）
日本心理学会将来構想検討委員会委員（2006年度～2009年度）
日本社会心理学会理事（2005年度～現在）
日本応用心理学会理事（2006年度～現在）
国際犯罪学会第16回世界大会組織委員（2008年度～2011年度）
日本犯罪心理学会会長（2009年度～2012年度）
日本犯罪心理学会理事（2012年度～現在）

行場次朗教授

日本心理学会編集委員会副編集委員長（2008年度～2009年度）
日本心理学会理事・広報委員会委員長（2009年度～2011年度）
日本認知心理学会常務理事（2009年度～2010年度）

日本認知心理学副理事長・将来計画委員会委員長 (2010 年度～2011 年度)
日本基礎心理学会常務理事 (2005 年度～現在)
International Multisensory Research Forum 2011 Organizing Committee (2010～
2011 年度)
International Conference on Computer Vision Theory and Applications プログラ
ム委員 (2005 年度～現在)
電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ顧問 (2008 年～
2012 年度)
東北心理学会幹事 (1998 年度～現在)
第 31 回国際心理学会議(ICP2012)実行委員・広報委員長 (2011 年度～現在)
日本認知心理学会理事長 (2012 年度～現在)

阿部恒之教授

日本生理心理学会 評議委員 (2004 年～現在)
『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員 (2006 年～現在)
日本感情心理学会『感情心理学研究』 副編集委員長 (2007 年～2009 年)
日本感情心理学会『感情心理学研究』 編集委員長 (2010 年～現在)
日本感情心理学会 理事 (2010 年～2012 年)
日本感情心理学会 常任理事 (2012 年～現在)
日本心理学会 代議員 (2011 年～現在)
日本心理学会 倫理委員 (2012 年～現在)
日本心理学会 優秀論文選考委員 (2013 年～現在)
日本心理学会 学術大会委員 (2013 年～現在)
国際心理学会 2016 プログラム委員 (2013 年～現在)
日本感情心理学会第 21 回大会大会長 (2013 年)
日本顔学会第 18 回大会 (フォーラム顔学 2013) 実行委員長 (2013 年)

坂井信之准教授

日本味と匂学会 評議委員 (2008 年～現在)
におい・かおり環境学会誌編集委員 (2008 年～2012 年)
日本感情心理学会『感情心理学研究』 編集委員 (2010 年～2012 年)
『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員 (2012 年～現在)

辻本昌弘准教授

『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員 (2005 年度～現在)
日本社会心理学会 学会賞選考委員 (2009 年度)

上原俊介助教

日本感情心理学会第 21 回大会実行委員会委員 (2013 年度)
日本顔学会第 18 回大会実行委員会委員 (2013 年度)

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2013 年度)

1 大学院授業担当

大淵憲一教授

社会心理学特論
心理学総合演習 I (分担)
心理学総合演習 II (分担)
課題研究

行場次朗教授

心理学研究実習
心理学研究演習 II
心理学総合演習 I・II
課題研究

阿部恒之教授

心理学研究演習 III
実験心理学特論
心理学総合演習 I (分担)
心理学総合演習 II (分担)
心理学研究実習 I・II (I は主担、II は分担)
課題研究

坂井信之准教授

心理学研究演習 IV
応用心理学特論
心理学総合演習 I (分担)
心理学総合演習 II (分担)

心理学研究実習 I・II (分担)

課題研究

辻本昌弘准教授

心理学研究演習 V

心理学総合演習 I (分担)

心理学総合演習 II (分担)

心理学研究実習 I (分担)

心理学研究実習 II (分担)

課題研究

2 学部授業担当

大淵憲一教授

社会心理学各論

心理学研究法 (分担)

心理学基礎実験 (分担)

行場次朗教授

心理学基礎実験

心理学研究法

実験心理学概論

実験心理学各論

人文社会総合

阿部恒之教授

実験心理学概論

実験心理学演習

実験心理学各論

心理学基礎実験 I・II (Iは主担、IIは分担)

心理学研究法 (分担)

坂井信之准教授

実験心理学概論

心理学基礎実験 (分担)

応用心理学各論

応用心理学演習

心理学研究法 (前期は主担、後期は分担)

辻本昌弘准教授

社会心理学概論
社会心理学基礎購読
心理学基礎実験（分担）
文化心理学各論
文化心理学演習
心理学研究法（分担）

3 共通科目・全学科目授業担当

大淵憲一教授

なし

行場次朗教授

人文社会科学総合

心理学

阿部恒之教授

人文社会科学総合（2コマ担当）

全学・人文社会総論（1コマ担当）

全学・心理学（文系）

加齢研・スマートエイジングカレッジ（1コマ担当）

リーディング大学院・実践的防災学3（1コマ担当）

坂井信之准教授

心理学（医・保・歯）

辻本昌弘准教授

心理学

人文社会科学総合（分担）

（2）学術振興会会員（2009～2013年度）

大淵憲一教授

平成24～25年度 外国人特別研究員 吳正培

行場次朗教授

平成21年度 DC2 柴田理瑛

平成22年度 DC1 高橋純一

平成23年度 PD 鈴木結花 PD 柴田理瑛

平成24年度 DC1 竹島康博

平成 25 年度 PD 高橋純一

(3) 他大学への出講 (2009～2013 年度)

仁平義明教授

宮城学院女子大学 (2001～2009 年度)

尚絅学院大学 (2004～2009 年度)

新潟大学 (2009 年度)

大淵憲一教授

放送大学 (2001 年度～2011 年度)

宮城学院女子大学 (2001 年度～現在)

聖和短期大学 (2004 年度～2009 年度)

ノースアジア大学 (2004 年度～現在)

東北学院大学 (2009 年度)

東北福祉大学 (2010 年度, 2012 年度)

沖縄国際大学 (2010 年度)

行場次朗教授

新潟大学 (2012 年度)

山梨大学 (2010 年～現在)

岩手大学 (2010 年度)

昭和女子大学(2009 年度)

福島大学 (2006 年～現在)

東北福祉大学 (2001 年度～現在)

放送大学宮城学習センター (2001 年度～2012 年度)

阿部恒之教授

福島学院大学福祉学科 (2003 年～現在)

福島学院大学大学院臨床心理学研究科 (2007 年～2009 年)

武蔵野大学薬学科 (2006 年～, 2007 年より客員教授)

宮城学院大学 (2008 年～現在)

昭和女子大学 (2009 年～現在, 集中講義, 2011 年より客員教授)

広島大学 (2012 年 2 月・集中講義)

トゥルク大学（フィンランド・2012年12月・招聘による特別講義）
岩手大学（2012年12月・集中講義）
東北福祉大通信講座スクーリング（2013年6月・集中講義）
復興大学復興人材育成教育コース（2013年11月）

坂井信之准教授

朝日大学（2008年度～現在）
大阪市立大学（2009年度・2011年度）
尚綱学院大学（2012年度～現在）

辻本昌弘准教授

いわき明星大学（2004年度～2012年度）
弘前大学（2012年度）
岩手大学（2013年度）

荒木剛助教（2009年度～2011年度）

東北学院大学（2009年度～2011年度）
仙台医療福祉専門学校（2009年度）
山形大学人文学部（2009年度）
宮城県高等看護学校（2010年度～2011年度）

鈴木結花助教（2012年度）

東北文化学園大学（2008年度～2012年度）
宮城学院女子大学（2012年度）

上原俊介助教（2013年度）

東北文化学園大学（2013年度～現在）
宮城学院女子大学（2013年度～現在）
東北福祉大学（2013年度～現在）